

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
①平常展 (4館共通)								
1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (東京国立博物館)								
1) 「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。 法隆寺宝物館は28年4月下旬から全面再開する。黒田記念館は特別展「黒田清輝」の開催に伴い28年6月13日まで閉館する。								
2) 特集 テーマ性をもった展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。 ・上野動物園・国立科学博物館との連携企画「親と子のギャラリー あつまれ！トラのなかまたち」(4月12日～5月22日)・「平成27年度新収品展」(5月17日～5月29日)・「特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」(5月17日～7月10日)・「親と子のギャラリー 美術のうら側探検隊」(7月5日～8月28日)・上海博物館からの借用品を中心とする「上海博物館との競演—中国染織 その技と美—」(7月26日～10月23日)・正月恒例の「博物館に初もうで」(29年1月2日～1月29日)・特別展「春日大社展—千年の至宝」に合わせた企画「春日権現験記絵模本Ⅲ—現状模写と復元模写—」(29年1月17日～3月12日)・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(29年3月21日～4月16日)等								
3) 文化庁関係企画「平成28年新指定 国宝・重要文化財」(4月19日～5月8日)にて、28年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	列品管理課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】 (4館共通)								
1) 定期的な陳列替を実施し、8,538件の展示替を行った。 (東京国立博物館)								
1) 定期的な陳列替を実施し、8,538件の展示替を行った。								
2) 33件の特集を実施した。								
3) 「平成28年新指定国宝・重要文化財」を実施した(4月19日～5月8日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻のうち一部を、同時期の本館11室においても展示した。								
【補足事項】								
本館2階展示ケースの修理点検、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。東洋館の展示ケースの補修を行った。また、展示環境の改善のための工事を実施した法隆寺宝物館については、28年3月15日から一部、4月26日から全体の展示を再開した。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数	761,709人	512,186人	A		416,430	484,429	587,528	747,944
平常展の展示替件数	8,538件	6,009件	A		6,989	5,708	5,506	6,930
平常展の展示総件数	10,918件	-	-		9,190	8,824	8,161	8,911
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 特別展に関わる特集や「博物館でアジアの旅」や「博物館に初もうで」など、展覧事業の充実によって、目標値を上回る来館者があった。また、展示替件数も目標を大きく上回った。							
【中期計画記載事項】								
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 最新の研究成果を反映した平常展示とともに、テーマ性を持った特集「博物館でアジアの旅」にかかるイベント等を充実させたことによって、国内外の多く来館者があり、中期計画に向け、順調に進んでいる。今後はさらに来館者の理解、満足度を高める平常展示を進めていきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信											
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展											
【年度計画】												
①平常展 (4館共通)												
1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (京都国立博物館)												
1) 明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための平常展展示計画を検討する。												
2) 平成知新館において、部門を超えた特集陳列を行う。												
・「徳川家康没後四百年記念 徳川将軍家と京都の社寺 -知恩院を中心に-」(6月14日～7月18日)												
・「丹後の仏教美術」(7月26日～9月11日)												
・「生誕300年 与謝蕪村」(8月23日～10月2日)												
・「とりづくし—干支を愛でる—」(12月13日～29年1月15日)												
・「生誕300年 伊藤若冲」(12月13日～29年1月15日)												
・「皇室の御寺 泉涌寺」(12月13日～29年2月5日)												
・「雛まつりと人形」(29年2月18日～3月20日)												
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	伊藤信二								
【実績・成果】												
(4館共通)												
1) 平常展来館者数については186,162人と目標値を上回った。展示替件数は943件であり目標値を上回った。 (京都国立博物館)												
1) 特別展覧会前後の準備・撤収のため名品ギャラリー閉室期間を設けるための展示計画を策定した。												
2) 年度計画に加え、3階1室にて特集陳列「絵付けの美 長崎・亀山焼」(10月15日～11月27日)、1階1室にて特別公開「修理完成記念 鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」(29年1月17日～2月19日)を行った。												
【補足事項】												
(4館共通)												
1) 特別展覧会前後の準備・撤収のため名品ギャラリーを閉室する期間はあるものの、分野毎の展示室を横断するテーマを持たせた特集陳列を数多く行うことが増員につながり、目標値を上回った。 (京都国立博物館)												
2) ・「徳川家康没後四百年記念 徳川将軍家と京都の社寺 -知恩院を中心に-」、「丹後の仏教美術」、「皇室の御寺 泉涌寺」においては多数の作品借用を行い、館藏品・寄託品以外で京都府下・市下に所在する文化財を来館者に紹介することができた。												
・28年度は伊藤若冲生誕300年の年でもあり、東京都美術館、京都市美術館でも伊藤若冲関連の特別展覧会が開催されたが、当館の「生誕300年 伊藤若冲」では両館において不出品の作品を14件(初公開作品8件含む)展示した。												
・27年度の特集陳列「皇室ゆかりの名宝」に続き、28年度は特集陳列「皇室の御寺泉涌寺」を開催することで、冬の時期における「皇室関連」展示の定例化を試みた。												
【定量的評価】項目					28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数					186,162人	166,600人	B	-	-	-	265,791	205,526
平常展の展示替件数					943件	919件	B		-	-	693	1,145
平常展の展示総件数					1,068件	-	-		-	-	980	1,438
【年度計画に対する総合評価】					【判定根拠、課題と対応】平常展来館者数及び展示替え件数ともに目標値を上回り、京都に立地する当館の特色を生かし、特集陳列にて作品のみならず地域や社寺に焦点を当てた展示を行うなど、十分な成果である。							
評定：B												
【中期計画記載事項】												
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。												
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。												
【中期計画に対する評価】					【判定根拠、課題と対応】特集陳列「丹後の仏教美術」にて京丹後の文化を来館者に紹介することや伊藤若冲の生誕300年の節目である28年度に時機を得た特集陳列を行うなど、中期計画初年度として来館者増加のための取組を充分に行い成果は充分であった。取組を引続き継続し、29年度の来館者増加へつなげたい。							
評定：B												



「丹後の仏教美術」
展示風景



「生誕300年 伊藤若冲」
チラシ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
①平常展 (4館共通)								
1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (奈良国立博物館)								
1) 下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展(平常展)を実施する。また収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館 絵画・書跡・工芸・考古 なら仏像館 彫刻 青銅器館 中国古代青銅器								
2) 分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「和紙—近代和紙の誕生—」(6月7日～7月3日) ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月10日～29年1月15日) ・「お水取り」(29年2月7日～3月14日)								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長	内藤 栄				
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 来館者数、展示替件数とも、所期の目標値を達成した。 (奈良国立博物館)								
1) 下記のとよりの会場・期間で名品展を実施し、また特集展示を1件開催した。 ・西新館 名品展「珠玉の仏教美術」 開催期間：6月7日(火)～7月3日(日)、 12月10日(土)～29年3月14日(火) ・青銅器館 名品展「中国古代青銅器」 開催期間：4月1日(金)～29年3月31日(金)[通年開催] ・なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」 開催期間：4月29日(金・祝)～29年3月31日(金) ・特集展示「新たに修理された文化財」 開催期間：12月23日(金・祝)～29年1月15日(日)								
2) 当初計画どおり、以下の特別陳列を開催した。 ・「和紙—近代和紙の誕生—」(6月7日～7月3日) ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月10日～29年1月15日) ・「お水取り」(29年2月7日～3月14日)								
【補足事項】								
(奈良国立博物館)								
1) 施設改修のため約1年半の間、休館していた「なら仏像館」が4月29日に開館し、来館者に心地良い観覧環境を提供することができるようになった。								
改修後の「なら仏像館」展示会場								
								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数	145,676人	118,173人	A		145,914	122,075	92,147	95,208
平常展の展示替件数	427件	314件	A		465	130	208	286
平常展の展示総件数	664件	-	-		814	632	675	620
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 1年半以上の休館を経て、なら仏像館が再オープンした。工事による施設の改修により、観覧環境は大幅に改善した。またパネル・キャプション等の展示室内の多言語化の実現により、来館者サービスの面でも充実させた。そうした努力が実を結んだためか、来館者数は目標値の123%まで伸びた。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 なら仏像館が再開したことで、展覧事業の中核たるに相応しい平常展を、年間を通じて実施することができた。展示では特集を適宜組み入れることで、最新の研究成果を反映できている。多言語化に関しては、以前より全ての説明文章について英文も掲示していたが、再開後のなら仏像館では中国語・韓国語の表示及び音声ガイドを導入し、増加する外国人来館者への対応を図っている。以上のような対応の結果、本年度は来館者数が目標値を大きく超え、中期計画の初年度として十分な成果をあげることができた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展								
【年度計画】									
①平常展 (4館共通)									
1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (九州国立博物館)									
1) トピック展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。									
・「火縄銃の世界」(7月12日～9月4日)									
・「全国高等学校 考古名品展2016」(7月20日～9月25日)									
・「有田焼創業400年記念 旧家の暮らしを彩った器—古伊万里(仮称)」(9月14日～11月6日)									
・「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝～東アジア諸国との交流の歴史～(仮称)」(10月11日～12月4日)									
・「きらめきで飾る—螺鈿の優品をあつめて—(仮称)」(11月15日～12月23日)									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆						
【実績・成果】									
・トピック展示「火縄銃の世界」									
本展では、種子島に伝来して以降、国友や堺など鉄砲産地のさまざまな火縄銃や関連遺物の紹介を通して、日本における火縄銃の展開をたどり、歴史的な位置付けを明らかにした。とくに火縄銃のハンズオン展示が反響を呼び、夏休み期間中ということもあって好評を博した。									
・トピック展示「全国高等学校 考古名品展2016」									
26年度にはじめて開催された高等学校所蔵考古資料を紹介する第2弾の企画展。展覧会だけでなく、高校生が日頃の研究成果を披露する「考古フォーラム」も開催し、若年層への考古学の教育普及だけでなく、高等学校所蔵資料の活用を広く訴えた。									
・トピック展示「有田焼創業400年記念 古伊万里—旧家の暮らしを彩った器」									
創業400周年をむかえる有田焼を記念し、公家や大名など旧家ゆかりの作品や欧州の宮殿を彩った名品を紹介した。美術品の視点ではなく、消費地の視点から捉えた本展の構成は斬新で、歴史分野からも高い評価を得た。									
・トピック展示「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝」									
弥生時代の交易の中心であった長崎県原の辻遺跡の出土品を中心に、魏志倭人伝の世界の文化交流を紹介した。離島振興・離島活性化交付金にもとづく壱岐市との共同主催事業。展示室内に鯨骨格標本をつるし、ダイナミックな展示が話題となった。									
・トピック展示「きらめきで飾る—螺鈿の美をあつめて—」									
古来、人々に愛されてきた螺鈿の名品を、中国・韓国・日本・琉球・東南アジアから集め、文様や技法の特質、歴史的な展開について紹介した。本展は沖縄県浦添市美術館と共同主催で開催したトピック展示であり、内容の濃く質の高い展示を構成することができた。									
【補足事項】									
「古伊万里—旧家の暮らしを彩った器」では、佐賀県・西日本新聞社から協力をいただいた。									
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
	平常展の来館者数	393,590人	387,744人	B		460,525	349,848	357,362	412,621
	平常展の展示替件数	1,654件	1,253件	A		1,195	1,157	1,027	1,513
	平常展の展示総件数	2,208件	-	-		2,416	2,750	1,904	2,628
【年度計画に対する総合評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2月に発生した熊本地震および九州地域の風評被害のために、前半期落ち込んだものの、当館の文化交流展らしい5本の多彩なトピック展示を開催し、目標を達成することができた。							
【中期計画記載事項】									
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。									
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の達成に向けて、順調に推移している。今後は今まで以上に関係各部署とのいっそう緊密な連携をはかりながら、円滑な展示室運営をはかっていきたい。							



「火縄銃の世界」



「全国高等学校 考古名品展2016」

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展		
【年度計画】 平常展（4館共通）2) 作品キャプション、展示に関する説明パネルの多言語化に取り組む。			
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館企画課	事業責任者	課長 救仁郷 秀明 企画室長 伊藤信二 情報サービス室長 岩井 共二 課長兼文化交流展室長 河野一隆
【実績・成果】			
2) (東京国立博物館)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示説明において作品キャプションについて、東洋館は英語、中国語、韓国語を付した。本館、考古展示室、法隆寺宝物館については、英語のみを付した。 ・ 展示室解説については、本館、東洋館、考古展示室は英語、中国語、韓国語を付したが、法隆寺宝物館は英語のみを付した。 ○ 政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。 ・ 東京国立博物館の展示説明において作品キャプションに全て英語、中国語、韓国語を付した。また東洋館においては作品キャプションに中国語訳・韓国語訳を付した。 ・ 展示テーマ数 140件全て(100%)について外国語パネルを設置した。また、74 件(56%) については中国語、韓国語での解説も付した。 ・ 展示室解説は、本館、東洋館、考古展示室は、法隆寺宝物館について全て英語、中国語、韓国語を付した。 ・ コーナー解説115件全てに全て英語、中国語、韓国語を付した。 ・ 作品解説は29年3月末で70%導入（101件中71件）し、4月末に完了予定。 (京都国立博物館) 28年度より名品ギャラリー(平常展)の展示作品の作品解説について、一部英訳を併記した。また、展示テーマ紹介パネル50件全てに英訳を併記した。さらには多言語化対応のため、音声ガイドを4言語(日、英、中、韓)にて引き続き実施した。なお、展示室看板(作品分野の解説)及び作品名の表示については、平成新館開館時より日英併記であった。 ○ 政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。 ・ 平成知新館名品ギャラリーの展示室看板へ中・韓国訳を付した。また、29年度の名品ギャラリーより中、韓の出品一覧を配布するための準備に着手した。 (奈良国立博物館) ・ 名品展「珠玉の仏たち」では、作品キャプションのタイトル/所蔵/材質技法/制作年について英語・中国語・韓国語を付け、大型作品には、英文解説を付けた。 ・ 名品展「珠玉の仏教美術」では、全ての作品キャプションを英語化した。パネル類は、全て英語を併記した。 ・ なら仏像館においては挨拶文の英語・中国語・韓国語・仏語の併記を実施した。 ○ 政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。 ・ なら仏像館においてはコーナー解説の英語・中国語・韓国語の併記を実施した。 (九州国立博物館) ・ 平常展では、作品キャプションに日英両言語を必ず併記し、作品解説には要所に英語を付した。 ・ 展示趣旨や時代背景等を解説するパネルには、タイトルは日・英・中・韓の4言語を併記した。また、27年度から導入したデジタル・サイネージにも日・英を必須で併記し、分かりやすい展示の実現に努めた。 ○ 政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。 ・ 文化交流展では展示室の多言語化を推進し、28年度末段階で作品キャプションの全てについて、英語・中国語・韓国語対応を完了した。説明パネルについては、同時点で40%が完了した。なお章解説ならびに音声ガイドについては、政府からの要請前より全て対応済である。 			
  ナレーションの3 言語翻訳コンテ ツ (九州)			
 文化交流展室の題箋 (九州)			
【補足事項】			
(九州国立博物館)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示のほか、海外の来館者からもニーズの高いスーパーハイビジョンシアターについても多言語化の検討を進めた。その方法として、既存映像に英・中・韓の3言語のテロップを当てる方法、ナレーションの3言語翻訳コンテンツを作成し、映像と同期させてイヤホンで聞く方法などについて、費用対効果を検討した。 ・ 29年度には「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録や、31年のラグビーワールドカップ、32年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、海外からの観光客の一層の増加が見込まれるため、すみやかに多言語化を推進できるように、NHKエンタープライズと共に詳細な仕様の検討を推進した。 			
 なら仏像館 外国語パネル (日・英・中・韓) (奈良)			

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
外国語パネル等の設置				経 年 変 化				
東京国立博物館	100%	-	-		100	100	100	100
京都国立博物館	100%	-	-		-	-	100	100
奈良国立博物館	100%	-	-		100	91	100	100
九州国立博物館	100%	-	-		87	85	92	92
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に掲げる多言語化を着実に実施した。加えて、政府方針に則り、年度途中から4言語化（日英中韓）実施を加速させ、作品キャプション、展示室解説等について、4館全てにおいて対応を行った。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。（略）								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、中期目標の達成に向かって順調に推進している。29年度は、展示替が行われても、常にキャプション等の4言語化を実施する予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																																									
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展																																																									
【年度計画】 ①平常展 (4館共通) 3)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。																																																										
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長 救仁郷 秀明 企画室長 伊藤 信二 課長 室溪 浩 課長兼文化交流展室長 河野 一隆																																																							
【実績・成果】																																																										
(東京国立博物館) ・タッチパネルアンケートにより、平成館、本館、東洋館、法隆寺宝物館で開催された全ての総合文化展でアンケートを実施し、集計結果を元に環境改善に努めた。また、記述式要望書により当館への質問・意見をいただき、対応に努めた。 (京都国立博物館) 展示室の動線がわかりづらい、特集陳列出品作品がわかりづらいなどの意見に対し下記の対応を行った。 ・各分野の展示室を跨って行われる特集陳列について、動線等わかりやすくするために章パネルにフロアマップを併記した。 ・特集陳列において、特集陳列出品作品であることをわかりやすくするために題せんへ、特集陳列のタイトルを併記した。またタイトルと合わせて特集陳列のマークを付すことにより、視認しやすさも改善した。 (奈良国立博物館) ・外国語による展示品の説明文が少ないとの声に応じ、名品展「珠玉の仏たち」において英・中・韓の音声ガイドを導入した。 (九州国立博物館) ・平常展で満足度調査を実施し、来館者からの意見等については、関係者間で内容を共有し、改善に努める等満足度を高めるために活用した。また、展示室の内外に、開催中のトピック展示の内容、開催場所がわかりやすいよう、案内版や大型パネルを掲出した。																																																										
【補足事項】 (東京国立博物館) ・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。 ・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。 ・新春特別公開において国宝「松林図屏風」を展示するに当たり、多くの鑑賞者が滞留するため、通常展示室中央に設置されたソファを撤去するなど、迅速に展示環境を調整した。 (京都国立博物館) ・特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」については、特集陳列を実施していない展示室を跨るためフロアマップは不可欠であった。 (奈良国立博物館) ・アンケートの結果は職員に回覧し情報共有を図った。また、展示に関わる質問や改善・要望に対しては、担当部署(学芸部)に個別に回送し、迅速な対応に努めた。 (九州国立博物館) ・文化交流展で実施しているアンケートの中で、満足度を定量的に評価する項目を設けて分析した。また、展示に対して寄せられた意見を一覧できるように整え、館長以下、研究員、館内職員全体で問題点の共有を図った。これによって、魅力的で内容も充実した展覧会の開催に向けて、情報を共有する基盤が整った。																																																										
【定量的評価】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経年変化</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常展の来館者アンケート満足度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>71.0%</td> <td>74%</td> <td>C</td> <td>70</td> <td>78</td> <td>77</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>75.0%</td> <td>79%</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>74</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>88.9%</td> <td>79%</td> <td>B</td> <td>79</td> <td>84</td> <td>81</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>73.8%</td> <td>67%</td> <td>B</td> <td>70</td> <td>65</td> <td>62</td> <td>72</td> </tr> </tbody> </table>									項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	平常展の来館者アンケート満足度									東京国立博物館	71.0%	74%	C	70	78	77	82	京都国立博物館	75.0%	79%	C	-	-	74	83	奈良国立博物館	88.9%	79%	B	79	84	81	78	九州国立博物館	73.8%	67%	B	70	65	62	72
項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27																																																		
平常展の来館者アンケート満足度																																																										
東京国立博物館	71.0%	74%	C		70	78	77	82																																																		
京都国立博物館	75.0%	79%	C		-	-	74	83																																																		
奈良国立博物館	88.9%	79%	B		79	84	81	78																																																		
九州国立博物館	73.8%	67%	B	70	65	62	72																																																			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートの満足度では、一部目標値を下回る施設があったものの、4館全体については目標値(74%以上)を上回った。また、アンケート等を通し、キャプション等の指摘等への対応や、章パネルへのフロアマップの併記等、アンケートの結果を展示内容等改善に活かす取組を実施した。																																																						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。																																																										
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 中期期間の初年度である28年度は、来館者アンケートの満足度について、前中期期間の実績以上を達成することができた。引き続き、来館者アンケート等を通じて、お客様からいただいたご意見を基に展示内容等に活かし、展示内容等の改善に努めていきたい。																																																						




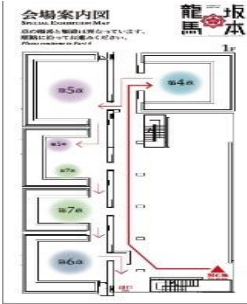
特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」章パネル(京都)







新春特別公開国宝「松林図屏風」(東京)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通)	ア 特別展等は、各施設の工事等による影響を勘案し、中期計画において定めた回数について開催する。 (東京国立博物館)年3～4回程度 (京都国立博物館)年1～2回程度 (奈良国立博物館)年2～3回程度 (九州国立博物館)年2～3回程度							
担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長 井上洋一 部長 山本英男 部長 内藤 栄 部長 小泉恵英					
【実績・成果】	<p>(東京国立博物館)特別展を12回開催した。内訳：当館開催8回、海外展4回(海外展については、独立行政法人国立文化財機構主催2回、九州国立博物館との共同開催1回含む。)</p> <p>(京都国立博物館)特別展覧会を2回実施した。</p> <p>(奈良国立博物館)特別展を3回開催した。</p> <p>(九州国立博物館)特別展を5回実施した。内訳：当館開催4回、海外展1回(海外展については、東京国立博物館との共同開催。)</p>		 <p>「兵馬俑展」会場(九州)</p>		 <p>「東山展」会場(九州)</p>			
【補足事項】	<p>(東京国立博物館) 当初予定の特別展に加え急きょ開催することとなった、日韓国交正常化40周年記念特別展「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」は、韓国国立中央博物館と協力して実施し、日韓の文化交流を進めるうえで貴重な機会となった。</p> <p>(京都国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展覧会「臨濟禪師1150年・白隠禪師250年 遠諱記念 禅-心をかたちに」</p> <p>(奈良国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻 一朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝—」、生誕800年記念特別展「忍性—救済に捧げた生涯—」、第68回 正倉院展</p> <p>(九州国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「始皇帝と大兵馬俑」、特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」、特別展「京都 高山寺と明恵上人 - 特別公開 鳥獣戯画 -」、特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」</p>		 <p>特別展「忍性」会場入口風景(奈良)</p>					
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	24	25	26	27
特別展の開催回数(海外展含む)								
東京国立博物館	12回	年3～4回	A		9	8	8	6
京都国立博物館	2回	年1～2回	B		5	3	2	3
奈良国立博物館	3回	年2～3回	B		3	3	3	4
九州国立博物館	5回	年2～3回	A	4	5	5	4	
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 目標値を大きく上回る回数の特別展を開催した。また、質の面でも充実したものとなっている。							
【中期計画記載事項】	<p>特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (東京国立博物館)年3～4回程度 (京都国立博物館)年1～2回程度 (奈良国立博物館)年2～3回程度 (九州国立博物館)年2～3回程度</p>							
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 積年の研究成果を反映し、国内外の博物館と連携した質の高い特別展を多数開催できた。29年度以降も、展覧会の質の高さを保ちながら、目標値を上回る多数の特別展を開催していく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長 竹之内 勝典 課長 浅見 隆介					
【実績・成果】 ・アンケートでの会場内に椅子を増やしてほしいという意見を受け、椅子を設置した。 ・アンケートでの展覧会のテーマ、展示作品に関する解説を増やして欲しいという要望に応えた。								
【補足事項】 ・展示エリア内全来館者用エレベーター内部に椅子を計8脚設置し、足腰が弱い来館者向けに腰掛とした。								
								
				エレベーター内に設置した椅子				
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	87.9%	71%	A	経 年 変 化	74	73	67	75
国宝土偶 縄文の女神	-	-	-		-	-	-	-
生誕150年 黒田清輝	89.6%	-	-		-	-	-	-
黄金のアフガニスタン	87.3%	-	-		-	-	-	-
古代ギリシャ展	83.4%	-	-		-	-	-	-
平安の秘仏	90.6%	-	-		-	-	-	-
禅一心をかたちに 春日大社展－千年の至宝	85.4% 91.2%	- -	- -		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 アンケートによる調査で高い評価を年間通して得ることができた。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 引き続きアンケートなどで要望の多い事項を順次検討の上実現させる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 企画室長 伊藤信二					
【実績・成果】 (4館共通) イ・特別展覧会「禅 - 心をかたち-」においてアンケートを実施し、動線がわかりづらい、作品に書かれている文字の読みや意味を知りたいという意見があったため、特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」において動線をわかりやすくするための工夫、作品についての解説改善を行った。 ・展示室内が撮影禁止であることに対する苦情があったため、特別展覧会では会場入口付近に看板等を造作し、来館者が記念撮影を行えるよう配慮した。								
【補足事項】 (4館共通) イ 「没後150年 坂本龍馬」においては、平成知新館の3階が名品ギャラリー、2階・1階が特別展覧会場であること、巡回展のため図録の章番号と順路が異なっていたため、動線の混乱が予想された。施した対策は以下のとおり。 ・3階エレベーター前に会場案内図を設置。 ・3階名品ギャラリーの章パネルに特別展覧会場への誘導サインを記載。 ・展示室内の1階、2階の階段付近に会場案内図を設置。 ・1階の彫刻室については名品ギャラリーであったため、特別展覧会出品作品ではないことを明記した案内看板を設置。 ・来館者がより作品を理解しやすくなるよう、出品した手紙の原文の読み下し文や解説を作品の近くに併記した。								
				 <p>坂本龍馬展会場案内図</p>  <p>会場案内図</p>				
【定量的評価】								
項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	78.1%	89%	C		88	89	88	87
禅 - 心をかたちに -	78.1%	-	-		-	-	-	-
没後150年 坂本龍馬	78.2%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート満足度については、平常展示館として建設された平成知新館にて特別展覧会を行うため、階をまたぐ動線や既設の案内図等の要因にて目標値を下回ることになったと考える。しかしながら、来館者アンケートの声をもとに、利用者に対応した運営を実現すべく、展示の動線をわかりやすくしたり、記念撮影場所を設けたりするなど、工夫を行い改善に活かした。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート結果を踏まえ、会場動線の可視化など、よりよい観覧環境を実現すべく常に改善を図るなど、中期計画初年度として、29年度以降の特別展覧会運営に資する取組を充分に行うことができた。28年度はアンケート満足度が目標値を下回ることになってしまったが、今後はアンケート結果の速やかな回覧等にて、満足度を下げる要因に対して速やかに対応していきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 室溪 浩			
【実績・成果】 (4館共通) イ ・館内スタッフの対応について、展覧会毎に監視説明会を行い、要員配置、留意事項、接遇の基本、業務内容、期間中のイベント、各売場、券売機の券種及び割引対象について、説明会を行った。 ・館内の混雑状況を考慮し、待ち時間の看板を適宜配置し、情報提供に努めた。 ・忍性展では、対面アンケートを行い、通常の展覧会よりも回収率を上げることができ、幅広く意見を聞くことができた。 ・巡回警備の際には、環境美化を保つ為、適宜対応した。 ・展示物と順路を考慮し、休憩スペースの確保を行った、また、地下回廊の休憩スペースでは飲食等も可能としている。 ・展示室への照度を考慮し、随時対応した。 ・正倉院展終了後、会議メンバーにより、アンケート結果の反省・検討会を行った。								
【補足事項】 ・混雑状況に応じて、臨時に待ち列看板を入口、券売機、集札付近に適宜配置し、混雑情報を提供した。 ・アンケートの要望、不満、意見及び現況を洗い出し、議論を重ね改善案を策定した。								
								
対面アンケートの様様			臨時待ち列看板設置			アンケート結果の検討会		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	86.4%	80%	B		82	81	79	79
国宝 信貴山縁起絵巻	91.6%	-	-		-	-	-	-
忍性 -救済に捧げた生涯-	92.6%	-	-		-	-	-	-
第68回正倉院展	74.9%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 人員を配置し、対面アンケート回収を行い、直接お客様の声を聞くとともに回収率の増加に努めた。各種展覧会アンケートで得られた意見については、内容を精査し対応可能なことについては順次改善していく。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 28年度の特展における満足度では、前中期目標の期間の実績以上となった。29年度以降もアンケートを実施し、意見等への検討を行い改善をはかり、満足度の向上につとめる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> 特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」では、唐招提寺御影堂内部をほぼそのまま再現し作品を展示したほか、照明についても調色可能な器具を取り入れるなどの工夫を行った。そのため、展示会場に対する来館者の評価は高く、集客につながった。 混雑が予想された特別展「京都 高山寺と明恵上人」では、他館のアンケート等を参照し、待ち時間の長さが予測されたため、教育普及ツールである冊子「レジェンド・オブ・明恵」を作製し、待ち時間の有効活用に努めた。また、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。関係部署と協議を重ね、来館者誘導に混乱が生じないよう万全を期したため、クレームを最小限とすることができた。 特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では、難解になりがちな展示を楽しめるよう解説パネルに工夫をこらした点が満足度調査で高く評価された。 								
								
高山寺展入場規制								
【補足事項】								
<p>ハローダイヤル、日本道路交通情報センターなど関係各所にFAXを送信し、混雑状況の周知を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催事務局において、ホームページだけでなくSNSを活用して、待ち時間などのリアルタイムの情報発信に努めた。 ○太宰府消防署の協力により、地域と連携した火災訓練を実施した。 ○筑紫野警察署の協力により、不審者対応の巡回を実施してもらった。 								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	85.9%	86%	C	経 年 変 化	86	85	85	88
始皇帝と大兵馬俑	87.6%	-	-		-	-	-	-
東山魁夷 自然と人、そして町	94.2%	-	-		-	-	-	-
京都 高山寺と明恵上人	78.8%	-	-		-	-	-	-
宗像・沖ノ島と大和朝廷	82.9%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 高い満足度で推移したが、高山寺展の待ち時間の長さのため、満足度が低くなり、特別展平均の目標値を達成できなかった。待ち時間解消のためにできる限りの工夫は行うことができた。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 管理運営のためのアンケート結果を関係各課で共有し、改善に向けて活かしている。また、外部委員の意見のまとめを全職員に配布し、来館者ニーズ等に対する職員の意識改革の推進を図った。なお、混雑が予想される特別展については、関係部署と連携を取り対応等を講じることができた。以上のとおり、中期計画に沿って運営を実施した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】	ア 特別公開「国宝土偶 縄文の女神」(28年3月23日～4月17日) 国宝の土偶5件のうちの1つである、縄文の女神と呼ばれる土偶を公開する。			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員 品川 欣也	
【実績】				
展覧会名	特別公開「国宝土偶 縄文の女神」			
会 期	3月23日(水)～4月17日(日)(25日間)			
会 場	本館特別第4室			
主 催	東京国立博物館、山形県、(公財)山形県産業技術振興機構			
作品件数	42件			
来館者数	この特別公開の会場は平常展の一部であるため、別途来館者カウントを行っていない。			
入場料金	一般620円、大学生410円 ※総合文化展観覧料			
アンケート結果	-			
【成果】				
企画構成 展示作品	「縄文の女神」は、その優美かつ圧倒的な造形力に加え、現存する立像土偶では日本最大の土偶である。この土偶が発見された山形県舟形町西ノ前遺跡では、この他にも大小さまざまな土偶残欠47個がともに出土していて、そのうち41個をあわせて公開した。また本展では、これら土偶のもつ造形的な魅力を存分に楽しんでいただくため、山形県内の企業が力を合わせ、最新の技術を用いて「博物館向け次世代展示ケース」を開発した。			
学術的意義	国宝土偶「縄文の女神」は現存する日本最大の土偶である。同じ西ノ前遺跡から出土した土偶残欠41個とともに展示することで、土偶「縄文の女神」の造形表現が秀逸なだけでなく、その大きさや遺存状況が特異であることを示し、縄文時代の儀礼を考えるうえで貴重であることを伝えることができた。			
教育普及	新鮮な光で「縄文の女神」を楽しむ」と題したギャラリートーク(4月15日、於本館特別4室、講師2名)を実施した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスターを制作、交通広告をJR上野駅等に出稿するとともに、朝日新聞紙上に広告を掲載した。また、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。展示室内では、展覧会情報の入ったポストカード(山形県制作)、山形県立博物館のチラシ、有機EL照明のチラシを配布した。報道内覧会を28年3月22日(火)に開催した16名出席。			
補 足	 <p>会場の様子</p>			
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	この特別公開の会場は平常展の一部であるため、別途来館者カウントを行っていない。
来館者数	-	-	-	



告知ポスター

【年度計画に対する総合評価】

評価：B

【判定根拠、課題と対応】

国宝の土偶「縄文の女神」を展示するとともに、これまで当館で紹介することがなかった関連作品も展示した。また、展示作品に最適な展示ケース、照明を検討したことによって作品にとって最適な鑑賞環境を提供することができた。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
イ 特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」(28年3月23日～5月15日) 日本近代洋画で最も重要な画家の一人である黒田清輝の主要作品と黒田が学んだ西洋絵画を展示し、黒田の目指した芸術に迫る。(目標来館者数10万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	列品企画課平常展調整室長 松嶋 雅人
【実績】			
展覧会名	特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」		
会 期	28年3月23日(水)～5月15日(日)(50日間)		
会 場	平成館		
主 催	東京国立博物館、東京文化財研究所、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション		
作品件数	240件		
来館者数	182,353人(達成率:182.4%)		
入場料金	一般1400円、大学生1000円、高校生800円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 89.6%		
			告知ポスター
			
【成果】			
企画構成 展示作品	日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝(1866-1924)の生誕150年を記念した大回顧展。フランスで油絵を学んだ黒田の印象派風の明るい光の表現を取り入れた画風は、日本の洋画界に新風を吹き入れた。また、黒田は東京美術学校で教育を任せ、日本洋画のアカデミズムを築いた。この展覧会では師コランやミレーなど、黒田がフランスで出会い導かれた作品を合わせて展示しながら、留学時代の「読書」「婦人像(厨房)」や帰国後の「舞妓」「智・感・情」などの代表作によって、黒田清輝の画業全体を振り返った。		
学術的意義	黒田清輝の画業全体を振り返る大回顧展であり、これまでの研究の成果を網羅するとともに、今後の研究の基礎資料となる。あわせて黒田の作品を網羅しつつ、師コランやミレーなどの同時代のフランス近代絵画を対比することで、日本絵画史のみならず、世界的な近代絵画史のなかで黒田の位置づけを行うことができた。		
教育普及	記念講演会を27年度に1回、28年度に1回実施した。そのうち平成28年度分については4月16日の講演「黒田清輝とフランス—日本近代絵画にもたらしたもの」で、応募総数365人、参加者数261人であった。またジュニアガイドを編集、刊行した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスター、プレチラシ、本チラシを制作、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開するとともに学校、旅行会社等に送付、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。また、展覧会公式WEBサイト、ツイッターアカウントが設置され、より幅広い層への訴求を行った。会期前・会期中を通じて、新聞、雑誌およびテレビ・ラジオ番組で紹介され、周知に貢献した。報道内覧会を28年3月21日に開催した(141名出席)。		
補 足	  <p>会場の様子</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	182,353人	100,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、満足度も高く、年度計画における目標を達成することができた。
------------------------	--

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ウ 特別展「黄金のアフガニスタン 一守りぬかれたシルクロードの秘宝」(4月12日～6月19日) 世界巡回をしている、カーブル博物館が所蔵するアイハスム、ティリヤ・テペなどの文化財を展示する。(東京国立博物館・九州国立博物館共同企画)(目標来館者数7万人)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 井上 洋一
【実績】			
展覧会名	特別展「黄金のアフガニスタン 一守りぬかれたシルクロードの秘宝」		 <p>告知ポスター</p>
会 期	4月12日(火)～6月19日(日)(61日間)		
会 場	表慶館		
主 催	東京国立博物館、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、産経新聞、フジテレビジョン		
作品件数	246件		
来館者数	154,875人(達成率:221.3%)		
入場料金	一般1400円、大学生1000円、高校生600円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 87.3%		
【成果】			
企画構成 展示作品	アフガニスタンは、古くから『文明の十字路』として栄え、シルクロードの拠点として発展した。その北部に点在する古代遺跡で発掘された貴重な文化財は、1979年のソ連軍による介入時に秘密裏に保管された。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された古代アフガニスタンの歴史と文化を紹介する国際巡回展である。日本展では、平山郁夫氏らの呼びかけにより日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなったアフガニスタンからの流出文化財の中から15件も出品された。		
学術的意義	中央アジアの考古学・古代史において極めて重要な考古資料を、出土コンテクスト等の情報とともに、細部まで観察できる状態で展示して、研究者の期待に応えることができた。また、展覧会図録で作品に関する正確なデータ(サイズ、材質など)を初めて提供したでの今後の研究に活用される。		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会を3回実施した。第1回は4月17日の講演「アフガニスタン展「私とアフガニスタン」」で、応募総数331人、参加者数199人であった。第2回は4月23日の講演「アフガニスタン展「バクトリアの秘宝を語る」」で、応募総数565人、参加者390人であった。第3回は5月28日の講演「アフガニスタン展「世界遺産を護れ!-迫る危機をのりこえて-」」で、応募総数409人、参加者数287人であった。 ・5月5日にキッズデーを開催するとともに、ナイトミュージアムのイベントを実施した(応募総数 676人、参加者数118人)。 ・ジュニアガイドを編集、刊行した。 		
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスター、プレチラシ、本チラシを制作、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開するとともに学校、旅行会社等に送付、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。また、展覧会公式WEBサイト、ツイッター、フェイスブックのアカウントが設置され、より幅広い層への訴求を行った。テレビ番組、雑誌等で多く紹介され、上野商店会等地域との連携による広報活動も行った。 4月11日 報道内覧会開催、126名出席		
補 足	 <p>会場の様子</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	154,875人	70,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 失われたと考えられていたアフガニスタンの文化財を展示し、目標を大きく上回る来館者があった。また、アフガニスタンの文化財保護に寄与するとともに、研究者への作品情報の提供もできた。
------------------------	--

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
エ 特別展「古代ギリシャ展—時空を超えた旅—」(6月21日～9月19日) フィッシャーマンを描いた壁画など、ギリシャ各地に残るギリシャ美術の名宝を紹介する。(目標来館者数20万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	調査研究課考古室長 白井 克也
【実績】			
展覧会名	特別展「古代ギリシャ展—時空を超えた旅—」		
会 期	6月21日(火)～9月19日(月)(80日間)		
会 場	平成館		
主 催	東京国立博物館、ギリシャ共和国文化・スポーツ省、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション		
作品件数	325件		
来館者数	199,567人(達成率:99.8%)		
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円※中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 83.4%		
告知ポスター			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	ギリシャには時代や地域によりさまざまな美術が開いた。本展はギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する日本でかつてない規模の試みとなった。		
学術的意義	青きエーゲ海の美しい島々からはじまるギリシャ最古のエーゲ海文明からヘレニズム時代まで、西洋文化の源である古代ギリシャ文明の黎明から最盛期に至るその壮大な歴史の流れを総合的に紹介した。 いわゆる「暗黒時代」を挟んだ前後の時代を、多神教の価値観に裏付けられつつ多様性や変化を含んだ一連のものとしてとらえ、陶器画、彫刻、金工などあらゆる分野の作品を、最新の発掘・研究成果を取り入れつつ展示した。特に各文明・時代の中心地のみならず、中心地以外の地域の個性にも光を当てることのできた。		
教育普及	記念講演会を1回実施した。6月25日の講演「ギリシャ展「ギリシャ美術を巡る旅—神々と人間の出会うところ—」」で、応募総数575、参加者数328人であった。また関連イベントとして7月25日にギリシャ展「古代ギリシャ ナイトミュージアム」を開催した。応募総数1604人、参加者数371人であった。 7月25日にキッズデーを開催し、ギャラリートークを4回実施した。第1回130人、第2回140人、第3回110人、第4回75人と計455人の参加があった。 ジュニアガイドを編集、刊行した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスター、プレチラシ、本チラシを制作、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開するとともに学校、旅行会社等に送付、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体のほか、展覧会公式WEBサイト、ツイッター、アカウントを設置、より幅広い層への訴求を行った。テレビで関連番組、展覧会紹介番組が多く放映された。 6月20日 報道内覧会開催、207名出席		
補 足			
会場の様子			
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	199,567人	200,000人	C

【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 これまでにない規模でギリシャ美術を紹介した。目標の来館者数にはわずかに達しなかったが、キッズデーを開催するなど、夏休み中の子供の学習に役立つことができた。
------------------------	---

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
オ 特別展「平安の秘仏 - 滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」(9月13日～12月11日) 滋賀・櫛野寺の像高が3メートルを越す秘仏本尊十一面観音菩薩坐像等、同寺の平安仏20体を展示する（目標来館者数8万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長 丸山 士郎
【実績】			
展覧会名	特別展「平安の秘仏－滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」		
会 期	9月13日(火)～29年1月9日(日) (96日間)		
会 場	本館特別5室		
主 催	東京国立博物館、櫛野寺、読売新聞社		
作品件数	20件		
来館者数	212,144人（達成率：265.2%）		
入場料金	一般1000円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 90.6%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹、櫛野寺には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体伝来する。本展覧会は、それらが揃って寺外で見られる初めての機会となった。本尊の十一面観音菩薩坐像は像高が3mもある圧巻の作品で、普段は大きく重い扉に閉ざされる秘仏である。他に像高2.2mの薬師如来坐像、11体の観音立像、坂上田村麻呂にまつわる毘沙門天立像、文治3年（1187）に造られたことが知られる地藏菩薩坐像なども出品され、櫛野寺に伝わる平安彫刻の全貌を紹介した。		
学術的意義	櫛野寺の重要文化財に指定される20体の仏像を適切な照明の下で展示し、表現などを観察する鑑賞環境を整えた。また、20体全てについて新たに写真撮影を行った上で、多くの図版を掲載する図録を刊行して、今後の研究の基礎資料を提供した。		
教育普及	記念講演会を実施した。10月15日の講演「平安の秘仏展「滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち展「滋賀・櫛野寺の仏像をめぐって」」で、応募総数934人、参加者数362人であった。また関連イベントとして声明を行った。		
その他 (運営・広報・サービス等)	[運営]所蔵者の都合で会期を18日間延長したが、混乱なく運営することができた。 [広報]ポスター、チラシ、はがきを制作、学校や博物館・美術館に送付するとともに、首都圏を中心に交通広告等展開した。読売新聞、朝日新聞への広告出稿のほか、特集記事も掲載、テレビ番組で輸送・展示など開幕準備の様子も紹介された。報道内覧会を9月12日に開催した（116名出席）。		
補 足	 <p>会場の様子</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	212,144人	80,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 像高が3mを越す仏像を展示するという、国立博物館でなくては実現が困難な展覧会を開催して、目標を大きく上回る来館者があった。また、全作品について写真撮影を行い、今後の基礎資料を提供することができた。
------------------------	--

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
カ 臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠諱記念 特別展「禅一心をかたちに」（10月18日～11月27日） 臨濟禪師1150年と白隠禪師250年遠諱を記念して禅宗美術の優品を展示する。（目標来館者数9万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	救仁郷 秀明（列品管理課長）
【実績】			
展覧会名	臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠諱記念 特別展「禅一心をかたちに」		
会 期	10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）		
会 場	平成館		
主 催	東京国立博物館、臨濟宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、BSジャパン		
作品件数	239件		
来館者数	133,629人（達成率：148.5%）		
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 85.4%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	臨濟宗・黄檗宗の源流に位置する臨濟義玄禪師の1150年遠諱、ならびに日本臨濟宗中興の祖、白隠慧鶴禪師の250年遠諱を記念して開催した。臨濟・黄檗両宗十五派の全面的な協力のもと、各本山や末寺、塔頭に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など、国宝22件、重要文化財102件を含む239件の多彩な名宝を通じて、禅の真髄に触れていただき、禅僧たちの足跡や禅の教えが日本文化に果たしてきた役割を紹介した。		
学術的意義	禅宗美術をとりあげた大規模な展覧会としては、本展は1981年の京都国立博物館における「禅の美術」以来、35年ぶりの開催である。また日本の臨濟宗・黄檗宗の美術をテーマとする大規模な展覧会としては初めての開催であり、臨濟・黄檗両宗に関連する重要な作品を総覧できる貴重な機会を提供した。出品作品の多くは、日本美術の歴史を語る上で不可欠な作品であり、臨濟宗・黄檗宗が日本美術に果たした役割の大きさを明らかにすることができた。過去15年間に開催した禅宗関連の特別展の蓄積を生かし、会場には一般来館者の理解に資する解説パネルを多数作成して設置し、また図録には最新の調査研究の成果を盛り込んだ。		
教育普及	記念講演会及び関連イベントを3回実施した。第1回が10月29日の講演「禅一心をかたちに一展「禅の美術」」で、応募総数617人、参加者数340人であった。第2回が11月3日のトークイベント「禅一心をかたちに一展「白隠 VS 雪舟 達磨図を語る」」で、有料チケット販売、参加者数355人であった。第3回が11月12日のイベント「禅一心をかたちに一展「禅寺の四ツ頭茶礼」」で、応募総数632人、参加者数380人であった。 そのほか、禅トークを10回、写禅語を13回、坐禅会を3回、尺八コンサートを1回実施した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスター、チラシ、はがきを制作、学校や博物館・美術館に送付するとともに、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開した。英文チラシを制作、外国人への周知を図ったほか、東京メトロとタイアップしたスタンプラリーを実施した。また、関連企画として制作された現代美術家チームラボの作品の発表会を開催し、若者や現代美術ファンへのアプローチを試みた。 報道発表会 7月8日開催、73名出席 報道内覧会 10月17日開催、116名出席 チームラボ新作発表会・特別内覧会 11月8日開催、177名出席		
補 足	 <p>会場の様子</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	133,629人	90,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、禅の美術の全容を紹介することができた。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
キ 特別展「春日大社展－千年の至宝」(29年1月17日-3月12日) 第60次式年造替を記念して春日大社に伝わる門外不出の古神宝など選りすぐりの名品と関連する作品を展示する。(目標来館者数12万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員 土屋貴裕
【実績】			
展覧会名	特別展「春日大社展－千年の至宝」		
会 期	29年1月17日（火）～3月12日（日）(48日間)		
会 場	平成館		
主 催	東京国立博物館、春日大社、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社		
作品件数	250件		
来館者数	209,572人（達成率：174.6%）		
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 91.2%		
【成果】			
企画構成 展示作品	春日大社では「式年造替」と呼ばれる社殿の建て替えや修繕が約20年に1度行われ、平成28年（2016）には60回目を迎えた。本展は、この大きな節目に、春日大社に伝来し、社外では拝観できない古神宝の数々とともに、春日の神々への祈りが込められた選りすぐりの名品を展覧した。「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社に伝来した王朝の精華を伝える古神宝類、祈りを込め奉納された甲冑や刀剣、聖地・春日野や神々の姿を表わした絵画や彫刻などが一堂に会した。		
学術的意義	本展では、社外ではめったに公開されない国宝の古神宝や甲冑・刀剣などの奉納品、また芸能にかかわる作例から、春日の神々へささげられた祈りを美術作品から紹介した点に学術的な意義が認められる。また、春日信仰の背景となる古代・中世の神仏習合や本地垂迹説など、日本人の宗教観が結実した造形についてまとめて紹介した点にも、大きな意義が認められる。		
教育普及	記念講演会を1回実施した。2月12日の「春日大社展「春日の歴史と神様にささげた究極の宝」」で応募総数995人、参加者数365人であった。		
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスター、チラシ、はがきを制作、学校や博物館・美術館に送付するとともに、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開した。 報道発表会 7月22日開催、42名出席 報道内覧会 29年1月16日開催、170名出席		
補 足	  <p>会場の様子</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	209,572人	120,000人	A



告知ポスター

【年度計画に対する総合評価】


評定：A

【判定根拠、課題と対応】

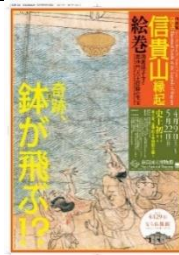
出品作品の調査・研究成果をふまえて、春日大社の歴史・美術、さらに春日信仰を紹介した。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者があり、中期計画における目標を達成することができた。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】 (年度計画外で実施) 日韓国交正常化50周年記念 特別展「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」(6月21日—7月10日)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長 丸山士郎
【実績】			
展覧会名	日韓国交正常化50周年記念 特別展「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」		
会 期	6月21日（火）～7月10日（日）(20日間)		
会 場	本館特別5室		
主 催	日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館、韓国国立中央博物館、NHK		
作品件数	2件		
来館者数	78,562人		
入場料金	一般1000円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度 80.6%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつけられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。		
学術的意義	日本と韓国に伝わる半跏思惟像の優品を同時に展示することで、両国の半跏思惟像の共通点や相違点を示すことができた。また、図録には韓国国立中央博物館研究員の論文を掲載するなど、作品に関する意見交換をして学術的な交流を深めることができた。		
教育普及	-		
その他 (運営・広報・サービス等)	[広報]ポスター、チラシを制作、学校・関係団体等に送付するとともに、JR等の大型ボードに広告を掲出、あわせて朝日新聞、読売新聞に広告を出稿した。『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報を発信、韓国中央博物館での展覧会関係報道と合わせ、多くの番組や新聞紙上で紹介された。 6月20日 報道内覧会開催、207名出席（「古代ギリシャ」展と同時開催）		
補 足	<p>・本展は年度計画に無く、急遽開催されたものである。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>会場の様子</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	78,562人	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評価：-	【判定根拠、課題と対応】 急遽開催した展覧会であるが、78,562人（一日平均3,928人）の入館者があり、図録も13,329冊（売上率17.2%）もの売上があった。なお、本展は年度計画に無く、急遽開催されたものであるため、年度計画に対する評価はない。
------------------------	---

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】	ア 特別展覧会「禅-心をかたち-」(4月12日～5月22日) 臨済宗・黄檗宗の寺院に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など多彩な名宝の数々を一堂に集め、我が国における禅僧の足跡や禅の教えが日本文化に対し果たしてきた役割を紹介する。(目標来館者数7万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室主任研究員 羽田 聡
【実績】			
展覧会名	特別展覧会「禅-心をかたち-」		
会 期	4月12日(火)～5月22日(日)(36日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞		
作品件数	305件(うち、国宝19件、重要文化財104件、重要美術品1件)		
来館者数	88,288人(達成率:126.1%)		
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円		
アンケート結果	満足度 78.1%		
	告知ポスター		
			
【成果】			
企画構成 展示作品	臨済宗・黄檗宗15派の源流に位置する高僧、臨済義玄の1150年遠諱と、日本臨済宗中興の祖、白隠慧鶴の250年遠諱を記念して開催。本展は、各派本山や末寺、塔頭に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など多彩な名宝の数々を一堂に集めた過去最大規模の禅の展覧会である。また、現代でも多くの禅寺では、座禅会や僧侶による講和が人気を博し、海外でも生活スタイルに「ZEN」の思想を取り入れているなど、時機を見て開催したものである。		
学術的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の過程において、大分県の見星寺では「慧可断臂図 白隠慧鶴筆」及び「龍図 仙厓義凡筆」が新たに発見された。 ・刊行した図版目録には、研究員11名(東京国立博物館5名、京都国立博物館5名、外部1名)による各論を収録し、展示作品にまつわる最新の研究成果を紹介することにつとめた。 ・5月4日(水)に研究者を対象として開催したシンポジウム「日本国内における禅宗文化の受容と伝播」では、講師 川本慎自氏(東京大学史料編纂所 助教)ほか2名による研究発表、座談会を実施し、活発な意見交換を行った。 		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「くじで出会う 禅のことば」を会期中実施。本展に関連のある禅語のくじを引き、書写をしたり、その言葉の意味を考えたり、解説を聞くことで禅に親しみを持つきっかけにしているものである。 ・『博物館Dictionary』188号、189号へ本展に関連の内容を掲載し発行。 ・関連土曜講座 4月23日(土)「禅画と墨蹟-近世の禅林美術-」講師 福島 恒徳氏(花園大学文学部教授)など含む5回実施。 		
その他 (運営・広報・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等 記念講演会及び講堂内における四頭茶会と声明及び狂言、座禅会、そして平成知新館グランドロビーにおいてロビー講話を実施した。 ・多言語対応 展覧会後期より一部の作品の解説へ英訳を併記した。 ・混雑対応等 動線がわかりづらいため、階段の近くなどへフロアマップを製作し設置した。 		
補 足	<ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会 4月16日(土)「禅における〈心〉のかたち」講師 野口 善敬氏(花園大学国際禅学研究所 所長) ・講演会 4月24日(日)「禅と水墨画 雪舟と白隠を中心として」講師 山下 裕二氏(明治学院大学 教授)、細川 晋輔氏(臨済宗妙心寺派龍雲寺 住職) ・四頭茶会 一禅院の茶礼 5月3日(火・祝) 茶祖とされている明庵栄西を開山(創建者)とする建仁寺で毎年4月20日に行われる四頭茶会を再現・実演し、その礼儀作法を解説。 ・声明-禅の祈り 4月29日(金・祝)、5月8日(日) 儀礼の際に行われる、僧侶が経典や回向文に節をつけて奏でる仏教音楽の一つである声明を実施。 		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	88,288人	70,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 来館者が目標値を超えたこと及び、外国人来館者の増加に伴う英訳解説対応による多言語対応、そして数多くの禅文化に関わる事象を視覚的にわかりやすく紹介するイベントにより、禅の歴史と教え、更にはそれらが日本文化に対し果たしてきた役割を十分に多くの来館者に紹介し、我が国の中核拠点としての位置づけを示すことができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】イ 特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」(10月15日～11月27日) 龍馬が亡くなっておよそ150年、近年発見された新資料を通じて改めて龍馬イメージを再構築し、幕末という時代に迫る。(目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一
【実績】			
展覧会名	特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」		
会 期	10月15日(土)～11月27日(日)(38日間)		
会 場	平成知新館1階、2階		
主 催	京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ		
作品件数	※186件(うち重要文化財1件) ※参考出品1件をのぞく件数		
来館者数	98,533人(達成率:164.2%)		
入場料金	一般1,300円、大学生1,100円、高校生800円		
アンケート結果	満足度 78.2%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	幕末の志士坂本龍馬が京都で亡くなっておよそ150年、坂本龍馬を主人公にして幕末史をふり返る特別展覧会を開催。本展では、坂本龍馬直筆の手紙のほか、遺品として有名な血染めの掛軸や屏風、坂本家の家紋入りの紋服、土佐でもらった小栗流の剣術免状、近江屋で使った海獣葡萄鏡等を一部屋に集めて展示。また、個人宅から発見された「越行の記」や北海道で再発見された龍馬佩用の脇差など、この十年に進展した坂本龍馬研究の現状について紹介したものである。		
学術的意義	<ul style="list-style-type: none"> 坂本龍馬直筆の書状のうち初公開として安政三年の相良屋源三郎宛て、慶応二年の伊藤九三宛て、慶応三年の佐々木高行宛てなどの重要な手紙を展示し、坂本龍馬研究の新たな視点を紹介することができた。 北海道坂本家史料の展示に伴い、当館所蔵の坂本家寄贈品の伝来を確認することができた。 近年発見された「越行の記」を展示することのみならず、近江塩津の林家史料が土佐藩北国開拓事業の一端を示す貴重な資料であることが裏書から判明した。 パークス襲撃事件に関する新たな資料(刀)について展示することができた。日本刀を用いた実際の戦闘記録が明確に記録され、なおかつ使用者と現物が確認できる極めてまれな例である。 		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ 「龍馬さんからお手紙です！」を会期中実施。坂本龍馬の手紙を受取り、読み解くことで、手紙の面白さや坂本龍馬という人物の魅力を知ってもらうものである。 博物館Dictionary 193号へ本展に関連の内容を掲載し発行。 関連土曜講座 10月29日(土)「龍馬と坂本家」講師 高知県立坂本龍馬記念 学芸課長 前田由紀枝氏など含む7回実施。 		
その他 (運営・広報・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> イベント等 「刀剣乱舞DAY」(11月3日～6日)を実施。期間中、先着500名に特製クリアファイル配布等実施。 広報等 BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」(11月11日)にて放映。 シアター等 講堂にて「坂本龍馬の手紙」を放映。 運営等混雑が激しい作品前には最前列観覧用の列と後ろからの観覧列と分けるなど、混雑対策を実施。 キャプション等 一部の作品については置きキャプションとともに貼りキャプションを設置し、距離に関わらず解説を読みやすくなるようにした。 		
補 足	<ul style="list-style-type: none"> 月琴コンサート 11月15日(火) 坂本龍馬の命日である11月15日に、龍馬とその妻おりょうにゆかりの月琴コンサートを実施。 特別トークショー 11月3日(木・祝) 小坂崇氣氏(「刀剣乱舞 - ONLINE-」原作プロデューサー)と東京国立博物館末兼研究員による、刀剣鑑賞の楽しみ方や刀剣にまつわる話についてのトークショーを実施。 		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	98,533人	60,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 「刀剣乱舞 DAY」イベントの実施により、来館者数の増員を図るなどして来館者数の目標値を達成し、想定外の混雑が生じた。しかしながら、事前に混雑時の運営を想定していたため、作品前の待列対策を施せたことや、混雑時でも読みやすいキャプションを事前に設けることなど対策は充分であった。また、最新の坂本龍馬研究成果の公表のみならずパークス襲撃事件関連作品の展示などにより美術工芸から見た幕末を紹介することもできた。以上により、目標を上回る成果を上げた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
ア 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻一朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」(4月9日～5月22日) 日本三大絵巻の一つとして数えられる信貴山縁起絵巻の全貌を紹介する。また朝護孫子寺の寺宝の数々を関連する寺外の名品とともに公開することで、信貴山毘沙門天への信仰が生み出した造形の魅力にも迫る。(目標来館者数5万人)			
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	谷口耕生
【実績】			
展覧会名	特別展「国宝 信貴山縁起絵巻一朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」		
会 期	4月9日(土)～5月22日(日)(39日間)		
会 場	奈良国立博物館 東・西新館		
主 催	奈良国立博物館、総本山朝護孫子寺、読売新聞社		
作品件数	78件		
来館者数	55,198人(目標50,000人、達成率:110.4%)		
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円		
アンケート結果	満足度 91.6%		
			
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	<ul style="list-style-type: none"> ・平安絵巻の傑作である国宝 信貴山縁起絵巻全3巻を史上初めて全会期にわたり全巻全場面展示した。 ・絵巻全巻展示に当たり仮説専用展示ケースを新造し、絵巻の細部を間近に鑑賞できるよう工夫した。 ・信貴山縁起絵巻と同時代の平安絵巻や信貴山朝護孫子寺の寺宝等の関連文化財を一堂に展示することで、同絵巻の絵画的魅力とともに信貴山信仰史上における意義も広く紹介した。 		
学術的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等を用いた光学的調査の成果に基づいて制作した信貴山縁起絵巻の復元模写を展示し、制作当初の彩色を視覚的に提示した。 ・信貴山朝護孫子寺の寺宝調査を事前実施し、その過程で発見された未紹介の重要作品を数多く展示するとともに、その学術的価値を図録解説で紹介した。 ・信貴山朝護孫子寺の歴史の中に信貴山縁起絵巻制作の意義を位置づける総説、3本の各論、関連年表、絵巻の詞書全文、参考文献一覧など学術的価値の高い資料を図録に掲載した。 		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ・高精細デジタル画像を用いた大画面スクリーン映像展示、デジタル・ビューアシステムを展示室内に設置し、信貴山縁起絵巻の細部表現やストーリーへの理解を促した。 ・会期中に公開講座を3回実施した。 ・小学生の親子を対象とするミニチュア絵巻制作体験のワークショップを実施した。 		
その他 (運営・広報・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑対策として、絵巻を間近に鑑賞する最前列のゾーンを結界で区切り、結界越しの背後からであれば列に並ぶこと無く自由に鑑賞できるよう動線を工夫した。 ・絵巻鑑賞の待ち時間をリアルタイムで表示するパネルを各入口に設置した。 ・空飛ぶ鉢と米俵の模型をエントランス・ホールに吊るして撮影ゾーンを設置し、観客が記念写真をSNS上にアップするよう促した。 		
補 足	【公開講座・ワークショップ】 <ul style="list-style-type: none"> ・4月23日(土) 公開講座「後白河法皇の信仰世界―神仏との交歓―」 講師：横内裕人(京都府立大学准教授) 171名参加 ・4月30日(土) 親子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」 2回実施。合計49組105名参加(1回目:25組55名、2回目:24組50名) ・5月7日(土) 公開講座「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」 講師：谷口耕生(当館学芸部教育室長) 194名参加 ・5月21日(土) 公開講座「信貴山縁起絵巻について」 講師：梶谷亮治(奈良県学芸統括参与) 194名参加 		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	55,198人	50,000人	B
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 信貴山縁起絵巻を全会期全場面展示し、信貴山朝護孫子寺の寺宝を数多く初公開したことで、満足度91.6%と高い評価を得るとともに、目標人数を上回る入場者数を達成した。絵巻鑑賞の待ち時間が1時間近くまで延び、混雑対策に課題を残した。		

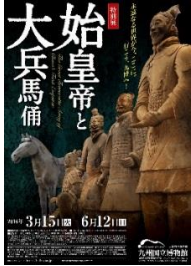

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
イ 生誕800年記念特別展「忍性－救済に捧げた生涯－」（7月23日～9月19日） 忍性の生誕800年記念として特別展を開催。忍性ゆかりの寺院の名宝・文化財の数々を通して、奈良に生まれた名僧、忍性の生涯を紹介する。（目標来館者数3万人）			
担当部課	学芸部列品室	事業責任者	室長 吉澤 悟
【実績】			
展覧会名	生誕800年記念特別展「忍性－救済に捧げた生涯－」		
会 期	7月23日～9月19日（53日間）		
会 場	奈良国立博物館 東・西新館		
主 催	奈良国立博物館、読売テレビ、読売新聞社		
作品件数	118件		
来館者数	39,834人（目標30,000人、達成率：132.8%）		
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円		
アンケート結果	満足度 92.6%		
【成果】			
企画構成 展示作品	忍性の生涯を辿る全6章構成とした。最初に忍性の肖像や伝記を紹介する1章を設け、以降、第2章から第6章は出家から示寂までの5つの段階で、関連する文化財を展示した。忍性は「癩」すなわちハンセン病を患った者に救いの手を差し伸べたことで知られる。その活動はマザー・テレサに先駆けること約700年である。展示ではその救済思想の根幹となる「文殊信仰」を大きく採り上げ、慈悲心に生きた偉人の生涯を紹介した。		
学術的意義	忍性を主役にした初めての大規模展覧会である。国宝18件、重要文化財35件を含む重要作品が一堂に観覧でき、中には「東征伝絵巻」（唐招提寺蔵、重文）の全巻全場面公開や、3つの忍性骨蔵器が史上初めて揃って展示されるなど、本展ならではの貴重な作品公開が実現した。また、図録には個別の作品解説の他、総論1本と各論5本、コラム4本を掲載し、そのうち各論とコラムには忍性や律宗の研究、ハンセン病の歴史などで第一線の研究者が執筆しており、向後の研究でも基本文献とされる本が作成できた。		
教育普及	本展に関連して公開講座を3回、夏季講座（3日間）を開催しており、さらに子供無料日（7月30日、31日は中学生以下無料）を設けて両日に2つのイベントを実施した。奈良芸術短期大学の協力によって忍性の生涯を紹介するアニメーション映像「笑顔のお坊さん 忍性 すべては母からはじまった」を作成して会場で上映したほか、その映像の教材活用を希望する小中学校には無償でDVDを配布した（当館の展覧会でアニメーション映像の活用は初めての試み）。また、奈良教育大学と奈良市教育委員会の協力を得て、奈良市内の学校教員と忍性の教材化に関する検討会を行った。		
その他 (運営・広報・サービス等)	凸版印刷株式会社の協力により「東征伝絵巻」（唐招提寺蔵、重文）の全容が分かる高精細映像を作成し、展示会場で上映した他、同絵巻を自由に拡大鑑賞できるタッチパネル映像コーナーも会場に設けた。読売テレビとの協業により、本展に関連した文化財を紹介する番組や報道番組を作成し放映したほか、歌手の南こうせつ氏を本展のスペシャルサポーターに迎え、上記のアニメーションのナレーションを担当、広報等にも協力を頂いた。		
補 足	 <p>アニメーション「笑顔のお坊さん 忍性 すべては母からはじまった」の一部</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	39,834人	30,000人	A
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】 当初計画にもとづき、学術的にも教育的にも有益な展覧会を開催することができ、目標値を上回る入館者数を獲得した。		
評価：B			

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】	ウ 特別展「第68回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数18万人)			
担当部課	学芸部工芸考古室	事業責任者	室長 清水 健	
【実績】				
展覧会名	第68回 正倉院展			
会 期	10月22日(土)～11月7日(月)(17日間)			
会 場	奈良国立博物館 東・西新館			
主 催	奈良国立博物館			
作品件数	64件			
来館者数	208,614人(達成率:115.9%)			
入場料金	一般1,100円 高校・大学生700円 小・中学生400円			
アンケート結果	満足度 74.9%			
【成果】				
企画構成 展示作品	<p>天平文化の精華を広く国民に公開する秋恒例の展覧会。68回目となった今年度は、正倉院宝物が概観できる器物、染織品、文書・経巻など初出陳9件を含む64件が出陳された。今回は、北倉伝来の聖武天皇ゆかりの宝物からはじまり、第1会場に、献物に関わる品や楽舞に関係する品など華やかなものを配置し、第2会場の第1室に聖武天皇一周忌齋会所用の用具をまとめて展示した。第2会場は儀式の用具からはじまって、仏・菩薩の供養に用いられる道具、奈良時代の生産技術に関する品、奈良時代の暮らしを伝える器物、文書と進み、経巻で締め括った。総体に奈良時代の宗教空間の提示から、金属工芸技術について眺めながら、世俗の生活の展示に至るよう配置した。</p> <p>なお本年は、一昨年完了した正倉院正倉の整備事業が総括されたのを受け、屋根から下ろされた瓦6点を、会期中に最新の知見とともに第2会場の入口付近(展示室外の仮設ケース)に展示した。</p>			
学術的意義	<p>正倉院宝物を大規模に公開するほとんど唯一の機会であり、殊に初出陳品には一般に公開されるのが史上初というものもあって、開催自体が重要な意義を持っていると考えられる。また本年は、奈良時代の金属生産と活用を一つのテーマとして提示し、大きな反響があった。さらに、巨大な仏具である大幡の関係品のまとまった展示や、復元プランの提示も、意義深いものであったと確信している。</p> <p>図録には多くの新写や初公開を含む多数の図版を収録し、用語解説と対照できる最新の知見を踏まえた解説を収録した。また最新の知見を含む小論文も掲載し、宝物研究の最前線を提示した。加えて、正倉院の瓦についての最新の知見を含むリーフレットを作成し、正倉の建立年代に及ぶ問題を提起した。</p>			
教育普及	<p>会場には宝物毎に簡潔な解説を付した日英の題箋を複数設置した。また正倉院宝物の概要やコーナー毎の見所を記したパネルや部分拡大図、技法解説などを随所に配置し、理解の促進を図った。</p> <p>会期中には公開講座3回、正倉院正倉をテーマとした学術シンポジウム、解説付きの親子鑑賞会を各1回実施した。ボランティア解説員による見所解説を1日5回講堂にて行った。さらに、学芸部で監修した日・英・子ども用の音声ガイドを貸し出した。会期前には大学1校で、研究員による出前授業を実施した。</p>			
その他 (運営・広報・サービス等)	<p>特別協力者の協力を得て、交通広告など、大規模な広報展開を行った。また、特別協力者(新聞社)と協力して新聞の特別紙面を構成し、会場で配布するとともに、申し出のあった学校等への配布も行った。他方、所蔵者の許可を得て、特別に申し出た事業者による宝物撮影の機会を設け、特集番組を含む番組制作・紙面制作に協力した。館内に予約制の託児室を設け、観覧環境の充実に努めた。また待ち列部分で映像を流し、観覧環境の向上や観覧マナーについて啓発及び注意喚起を行った。</p>			
補 足	<p>28年度は宝物を管理する正倉院事務所と協議し宝物の展示環境が改善したこと、混雑緩和を目的として金・土・日曜日及び祝日の観覧時間を、1時間延長し午後8時までとした。なお、時間延長の決定が報道発表や広報用の印刷物の製作に遅れたため、ポスター、チラシ等に記載の観覧時間と看板、ウェブサイト、新聞広告等に記載の観覧時間が齟齬したが、時間限定の観覧券(オータムレイト券)の取扱いを変更しなかったこともあり、大きな混乱はなかった。</p>			
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評価
	来館者数	208,614人	180,000人	B



告知ポスター

【年度計画に対する総合評価】 評価: A	【判定根拠、課題と対応】 前年より1万人強減少したものの、多くの観覧者が来場し、会場の混雑にもかかわらず、前年を上回る高い満足度であった。会場も局所的な集中箇所はほとんどなく、自然な動線が確立していた。会場からの声には、ストーリー性のある展示構成や写真を多用した補助展示、開館時間の延長を評価する声が多くみられた。一方、小さな展示物が多かったこともあり、壁付きケースに小品を展示することに対する不満が多くみられた。また、題箋や照明についての不満も多く認められた。今後はそうした声を踏まえ、配置等をよく検討し、一層観覧環境の充実に努めたいと思っている。
-------------------------	--

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
ア 特別展「始皇帝と大兵馬俑」(28年3月15日～6月12日) 20世紀最大の考古学的発見とされる兵馬俑と併せ、重要で多彩な文物を一堂に紹介する。(東京国立博物館・九州国立博物館共同企画)(目標来館者数11万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員 川村佳男
【実績】			
展覧会名	特別展「始皇帝と大兵馬俑」		
会 期	28年3月15日～6月12日		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、陝西省文物局、陝西省文化交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社		
作品件数	124件		
来館者数	191,222人(達成率:173.8%)		
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円		
アンケート結果	満足度 87.6%		
告知ポスター			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	紀元前221年に中国を初めて統一した秦の始皇帝が成し遂げた事績について、兵馬俑を中心に紹介するとともに、建国から中国統一にいたる秦国の歴史にも焦点を当てた。兵馬俑は中国から出品可能な最大限の件数10体を借用し、約50体のレプリカとともに展示することで、兵馬俑を出土した遺跡である兵馬俑坑を再現した。兵馬俑を主題とした展覧会としては、当館を含む国立3館を巡回した初めての例である。		
学術的意義	始皇帝の事績や人物像に関する研究は、これまで文献によって進められてきたが、本展では始皇帝陵や咸陽宮からの出土品による新たなアプローチを試みた。また、兵馬俑のうち將軍俑や雑技俑などが見せる姿態について新たな解釈を提示した。加えて、近年の発掘成果を踏まえて、秦国の歴史を西周時代の萌芽期にまで遡るとともに、西戎・匈奴など騎馬文化との関わりを交えて紹介することができた。		
教育普及	図・写真のパネル、演示具を多用し、ハンズオンコーナーを設けることで、文字をたくさん読まなくても意図が伝わる分かりやすい展示を目指した。また、「兵馬俑に迫る7つの話」のパネルを掲示することで、展覧会全体の脈絡をより明確にした。若年層にはジュニアガイド、イベント、始皇帝が統一した秦時代の単位で身長と体重を量るコーナーなどを打ち出し、より親しみやすくなるように工夫した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	兵馬俑と銅車馬を四周から観覧できる露出展示とし、展示室内で行列が発生することを防いだ。内覧会や館内外での講演会のみならず、1階ホールで人気漫画「キングダム」の原画展や関連遺跡写真のパネル展を開催した。ホームページやツイッターで関連情報を発信したほか、レプリカ兵馬俑や「キングダム」のキャラクターと記念撮影できるコーナーを3階に設け、SNSでの話題拡散を試みた。		
補 足	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ「紙で工作!兵馬俑に変身!」5月5日(木・祝) 記念講演会「はじめての兵馬俑」5月15日(日) 講師:市元壘(東京国立博物館) アクロス文化学び塾「徹底分析 始皇帝と兵馬俑」 5月14日(土) 講師:川村佳男(当館学芸部企画課主任研究員) 講座「始皇帝の考古学」6月5日(日) 講師:川村佳男(当館学芸部企画課主任研究員) イベント「兵馬俑トリックアート」 28年3月15日(火)～6月12日(日) 		
兵馬俑の展示室と賑わい			
			
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	191,222人	110,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評価:A	【判定根拠、課題と対応】 熊本地震の影響により九州全体で観光客が減った時期であったにもかかわらず、目標数値を大幅に上回る19万人以上の来館者を数え、アンケート回答者の9割近くが高い満足度を示した。また、展示やイベントに教育普及の要素を多く盛り込むことで、ジュニア層からシニア層にいたる幅広い年齢層の観覧者で賑わった。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
イ 特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」(7月16日～8月28日) 東山魁夷の画業の歩みを代表作でたどると共に、記念碑的な大作である唐招提寺御影堂の障壁画が特別に公開する。(目標来館者数7万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	特任研究員 臺信祐爾
【実績】			
展覧会名	特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」		
会 期	7月16日～8月28日		
会 場	九州国立博物館特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社		
作品件数	84件（会期中一部展示替えあり）		
来館者数	133,002人（達成率：190.0%）		
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円		
アンケート結果	満足度 94.2%		
【成果】			
企画構成 展示作品	日本画家・東山魁夷（1908-1999年）の画業を、「模索の時代（戦前）」、「自然との対話」、「古都の佇まい」、「唐招提寺御影堂障壁画」、「終わりのない道」の5章を通して紹介した。東京美術学校時代から絶筆にいたる代表作だけでなく、展覧会で見る機会の少ない、構想から完成まで約10年を要した東山魁夷・畢生の大作唐招提寺御影堂障壁画全68面も含まれている。当館に引き続き、広島県立美術館に巡回した。		
学術的意義	戦後の日本画、なかでも風景画に大きな足跡を残した日本画家東山魁夷の画業を代表作で迎る、九州地方における初めての大規模展覧会であった。主要な所蔵者の全面的な協力を得て、充実した展示となった。東山魁夷研究の第一人者である茨城県近代美術館長尾崎正明氏の企画・構成により、画風の変遷を含む東山の画業の全貌がわかりやすく提示され、図録（2,000円）の販売数も1万冊を越えた。		
教育普及	来場者の理解を助けるため、章解説パネル以外に、「東山魁夷略歴」「鑑真和上と唐招提寺御影堂」「御影堂と平面図」や「習作とは」などのパネルを会場に掲出した。会場の雰囲気を担当者の解説付きで見せる約1分の動画を制作し、御影堂障壁画再現展示コーナーの写真とともに当館ホームページで公開した。 記念講演会および制作記録映画上映会、きゅうはくミュージアムコンサートを実施したほか、TV取材などに積極的に対応した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	広島県立美術館担当学芸員と緊密に連絡を取り情報共有をはかるとともに、本展出陳作品の集荷および作品返却作業についても手分けして行った。作品鑑賞のための空間を確保するため、前後期で作品の展示換え（約40点）を行った。音声ガイドでは、作品制作の背景などについても解説した。通常のテレビコマーシャルや新聞広告の他、TVQ九州放送による本展のミニ番組を放映した。		
補 足	年に3日しか公開されない、東山魁夷の記念碑的な大作・唐招提寺御影堂障壁画全68面を、柱、畳や欄間を含む御影堂内部のしつらえとともに、現地をほぼそのまま再現し、臨場感溢れる展示となった。本展用に持ち込んだLED照明の色味を作品ごとに細かく調整し、東山魁夷が意図した絵画表現を展示室で初めて再現したことで、来場者はもとより専門家からも高い評価を得た。 前後期の展示替えにあわせ、前後期一度ずつ鑑賞できる割引特別鑑賞券を前売り販売した。 ・記念講演会「東山魁夷の生涯と芸術」7月16日（土）、講師 尾崎正明（茨城県近代美術館長） ・記録映像上映会&トーク「東山魁夷 山雲濤声 ～唐招提寺障壁画の記録～」 7月30日（土）（午前午後の2回） ナビゲーター 臺信祐爾（当館学芸部特任研究員） ・きゅうはくミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」8月11日（木・祝） 出演者 大迫淳英（ヴァイオリニスト）ほか		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	133,002人	70,000人	S
【年度計画に対する総合評価】 評価：S	【判定根拠、課題と対応】 28年の夏は、きわめて暑さが厳しく、リオオリンピック開催期間とも一部重なり、来場者数の予想が難しかったが、小中学校の教科書に掲載される等東山魁夷の知名度が高いだけでなく、特に御影堂障壁画全68面の再現展示に感動した来場者の口コミなどにより、目標値を大きく上回る結果となった。 作品の質の高さ、卓越した照明効果、広報努力などにより、予想値を大幅に超える来場者に恵まれた。		



告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
ウ 特別展「京都 高山寺と明恵上人 - 特別公開 鳥獣戯画 -」(10月4日～11月20日) 近年修理を終えたばかりの鳥獣戯画全4巻を九州で初公開し、中興の祖である明恵上人の生涯を彩る様々な名宝を一挙に紹介する。(目標来館者数12万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室研究員 森實久美子
【実績】			
展覧会名	特別展「京都 高山寺と明恵上人—特別公開 鳥獣戯画—」		
会 期	10月4日～11月20日		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、高山寺、西日本新聞社、TVQ九州放送、朝日新聞社		
作品件数	94件		
来館者数	161,172人（達成率：134.3%）		
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円		
アンケート結果	満足度 78.8%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	京都・高山寺中興の祖、明恵上人に焦点を当て、仏道に捧げた彼の生涯を紹介するとともに、貴顕や僧侶らとの人的ネットワークにも着目し、彼らとの交流を物語る作品も展示することで明恵が生きた世界を概観するような構成とした。また、平安時代末から鎌倉時代にかけて行われた南宋や高麗との交流にも目を向け、アジア全域に広がった仏教文化の隆盛ぶりを展望した。加えて、近年修理を終えたばかりの鳥獣戯画全4巻を九州では初めて公開した。		
学術的意義	明恵および高山寺を構成の軸としながら、同時代の人々や東アジアにおける仏教的な交流をも盛り込み、鎌倉時代の仏教界の活況ぶりを俯瞰するかつてない展示となった。隣接領域の最新の研究成果も踏まえた作品選定という点においても、学術的な意義は高いものといえる。		
教育普及	明恵をより深く知ってもらうため、明恵と弟子の対話形式で明恵の人となりや事績を紹介する冊子『レジェンド・オブ・明恵』（全16頁）を作成した。イラストを中心とした分かりやすいレイアウトと平易な文章によって、子供だけでなく大人にも楽しんでもらえる読み応えのある冊子として好評を得た。無償配布（8万部）をし、入場前の待ち時間に読んでもらうことで展覧会への理解も一層深まった。		
その他 (運営・広報・サービス等)	九州初公開となる鳥獣戯画をメインビジュアルとした広報物を作成し、早くから各方面の注目を集めた。注目の高さを示すように会期中には目標値を大きく上回る多くの来館者を迎えたが、混雑整理対策を行い、大きな混乱等はなかった。		
補 足	<ul style="list-style-type: none"> 九州初公開となる鳥獣戯画の人気を改めて認識させる展覧会であった。その一方で教育普及の目的で作成した冊子の効果もあり、九州では必ずしも知名度が高いとはいえなかった明恵を広く知らしめる機会となった。 展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。会期前および会期中には、以下の講演会・イベントを開催して、展覧会の普及に努めた。 <p>①第2回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」8月7日（日） 出演：柳家喬太郎（落語家）、森實久美子（当館学芸部企画課研究員）</p> <p>②特別講演会「鳥獣人物戯画の謎」10月9日（日） 講師：佐野みどり（学習院大学教授）</p> <p>③「能「春日龍神」と明恵上人」10月15日（土） 出演：塩津圭介（能楽師）、森實久美子（当館学芸部企画課研究員）</p> <p>④講演会「京都 高山寺と明恵上人の魅力」10月16日（日） 講師：森實久美子（当館学芸部企画課研究員）</p>		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	161,172人	120,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 老若男女に人気の高い国宝「鳥獣人物戯画」を展示し、新たな来館者層の開拓につながり、目標人数を大きく上回る来館者を得られた。また、初公開となる作品も展示し、調査・研究の成果を踏まえた展示を実現することができた。		


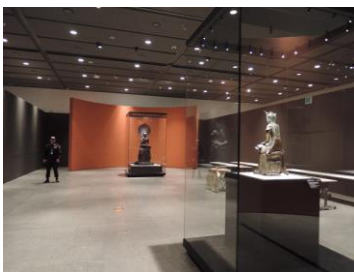
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
エ 特別展「ちはやぶる神代の島の物語－宗像沖ノ島と大和朝廷－（仮称）」（29年1月1日～3月5日） 沖ノ島の祭祀遺跡と祭祀遺物を紹介し、同時期の大和の古墳出土品と比較しながら国家祭祀を考える。（目標来館者数4万人）			
担当部課	展示課	事業責任者	情報サービス室研究員 小嶋 篤
【実績】			
展覧会名	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」		
会 期	29年1月1日～3月5日		
会 場	九州国立博物館特別展室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、宗像大社、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社、朝日新聞社		
作品件数	160件		
来館者数	75,966人（達成率：189.9%）		
入場料金	一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円		
アンケート結果	満足度 82.9%		
告知ポスター			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	本展覧会は、宗像・沖ノ島と大和朝廷の関係を明らかにする企画構成である。このため、展示作品は沖ノ島祭祀遺跡出土の国宝26件を核とし、大和朝廷中枢の資料である奈良県下の国宝5件・重要文化財14件を展示した。加えて、新羅や百済の王陵級古墳出土品や海上交通に関わる祭祀遺物を展示した。		
学術的意義	沖ノ島と大和朝廷の関係は、沖ノ島調査時から注目されてきた研究課題であり、これまでに多くの研究蓄積がある。先行研究の成果をふまえ、本展覧会では沖ノ島出土品と大和の出土品をはじめ体系的に陳列した。また、沖ノ島祭祀が成立した要因について、歴史的背景と思想的背景の両側面から絞り込むことで整理し、沖ノ島祭祀を日本の国家形成史の中で位置づけることができた。		
教育普及	本展覧会は、ユネスコ世界文化遺産候補である『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群について、より多くの人々に認知頂く機会となった。実物資料や3Dプリンタを利用した体験・撮影コーナーを設置。専門題箋に加えて、マスコットキャラ「ドリー」による題箋・章解説を行うことで「教科書よりも分かり易い」展示を行った。		
その他 (運営・広報・サービス等)	新聞広告・HP掲載、ラジオ・TV番組の出演、各期間での講座・講演会の実施等により、積極的な広報活動を実施した。		
補 足	<ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」29年1月21日（土） 「沖ノ島祭祀遺跡の調査と成果」 講師：小田富士雄（福岡大学名誉教授） 「未知の世界を探求する」 講師：ユ・ビョンハ（大韓民国・国立慶州博物館長） ・リレー講座「交差する日本神話とアジアの歴史」29年2月4日（土） 講師：笹生衛（國學院大学教授） 講師：小嶋篤（当館展示課研究員） 		
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価
来館者数	75,966人	40,000人	S
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 目標人数を大幅に上回る来館者を得られ、29年度のユネスコ世界文化遺産登録に向けた機運を盛り上げることができた。今後も文化交流の視点から地域に根差した活動を行い、継続的に世界遺産をはじめとした文化財の活用を後押ししていくことが求められる。		




中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2)海外展							
【年度計画】 (機構) ア 海外展「日本醍醐寺」(5月11日～7月10日)(会場：上海博物館) 醍醐寺に伝わる多くの文化財を展示し、日本の密教文化を中国で紹介する。								
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長 丸山士郎					
【実績・成果】 ・展覧会名 海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」 ・会 期 5月11日(水)～7月10日(日)(61日間) ・会 場 中国・上海博物館 ・主 催 中国・上海博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構 ・作品件数 67件 ・来館者数 349,375人 醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝(理源大師)(832-909年)が、貞観16(874)年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7(907)年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつけられ、いまま文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会では、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。								
【補足事項】								
								
会場の様子								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
来館者数	349,375人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝6件、重要文化財24件を含む67件という海外展としてはかつてない規模の展覧会となり、約35万人の入場者があった。また、原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を上海博物館と連携して計画的に効率よく進められ、醍醐寺に伝わる多くの文化財の展示を通して、日本の密教文化を中国で紹介することができた。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝6件、重要文化財24件を含む67件という海外展としてはかつてない規模の作品を展示したことにより、本海外展を日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する機会とすることができた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2) 海外展							
【年度計画】 (機構) イ 海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」(7月27日～9月20日)(会場：陝西歴史博物館) 醍醐寺に伝わる多くの文化財を展示し、日本の密教文化を中国で紹介する。								
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長 丸山士郎					
【実績・成果】 ・展覧会名 海外展「梵音東渡 - 日本醍醐寺国宝展」 ・会 期 7月27日(水)～9月20日(火)(56日間) ・会 場 中国・陝西歴史博物館 ・主 催 中国・陝西歴史博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構 ・作品件数 65件 ・来館者数 400,800人(推計)*特別展料金を設定しなかったため、正確な来館者数を計測しておらず、平常展入館者数から推計した。 ・入場料金 無料 醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝(理源大師)(832-909年)が、貞観16(874)年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7(907)年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまま文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会は、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。								
【補足事項】								
								
会場の様子								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
来館者数	400,800人(推計)	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝7件、重要文化財15件を含む65件という海外展としてはかつてない規模の展覧会となり、6万人を予想していたところ、約40万人の入場者があった。また、原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を陝西歴史博物館と連携して計画的に効率よく進められ、醍醐寺に伝わる多くの文化財の展示を通して、日本の密教文化を中国で紹介することができた。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝7件、重要文化財15件を含む65件という海外展としてはかつてない規模の作品を展示したことにより、本海外展を日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する機会とすることができた。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2) 海外展							
【年度計画】 (東京国立博物館・九州国立博物館共同企画) ア 海外展「日本美術の粋 東京・九州国立博物館精品展」(12月10日～29年3月10日)(会場：国立故宫博物院 南部院区 巫州芸術文化博物館) 東京・九州国立博物館の国宝・重要文化財などを公開し、日本美術の流れを展示、紹介する。								
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 九州国立博物館学芸部文化財課	事業責任者	調査研究課長 田沢裕賀 文化財課長 富坂 賢					
【実績・成果】 ・展覧会名 海外展「日本美術の粋 東京・九州国立博物館精品展」 ・会 期 12月10日(土)～29年3月10日(金)(73日間) ・会 場 台北・国立故宫博物院南院 ・主 催 台北・国立故宫博物院南院、東京国立博物館、九州国立博物館 ・作品件数 151件 ・来館者数 93,391人 東京国立博物館と九州国立博物館の収蔵品からの国宝、重要文化財、重要美術品68点を含む151点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の6章に分けて展示し、約5000年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した。								
【補足事項】 ・展覧会開催に先立ち、12月2日に「開箱記者會」が開催され、東京国立博物館職員及び九州国立博物館職員が立ち会いと挨拶を行った。 ・展覧会の開催式(12月12日)には東京国立博物館館長、九州国立博物館館長が祝辞を述べた。また、九州国立博物館から副館長、学芸部長も出席した。								
								
会場の様子								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
来館者数	93,391人	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を国立故宫博物院南院と連携して計画的に効率よく進められ、年度計画どおり日本美術の流れを展示、紹介することができた。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 当該展覧会を計画どおり開催し、東京・九州国立博物館の国宝・重要文化財などを公開したことにより、本海外展を日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する機会とすることができた。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2) 海外展							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 海外展「15-19世紀日中韓絵画精品展」(11月5日～12月18日) 東京国立博物館、中国・国家博物館、韓国・国立中央博物館が所蔵する絵画を展示する。								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	調査研究課長 田沢 裕賀					
【実績・成果】 ・展覧会名 海外展「15-19世紀日中韓絵画精品展」 ・会 期 11月5日(土)～12月18日(日)(44日間) ・会 場 中国国家博物院 ・主 催 中国国家博物院、東京国立博物館、韓国国立中央博物館 ・作品件数 52件 ・来館者数 42,153人 ・入場料金 無料 本展覧会は、中国、日本、韓国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第2回目の国際共同企画展である。今回は3カ国の15-19世紀を代表する絵画名品をテーマとし、中国は国家博物館、日本は東京国立博物館、韓国は国立中央博物館の所蔵品から出品した。各館の絵画コレクションから文人絵画、風俗絵画、仏画を精選し、中国の明清時代、日本の室町、江戸、明治時代、そして韓国の朝鮮王朝中後期の絵画芸術を中心に紹介した。								
【補足事項】								
								
会場の様子								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
来館者数	42,153人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 東京国立博物館、中国・国家博物館、韓国・国立中央博物館が所蔵する絵画について、日本、中国、韓国の3カ国の15-19世紀を代表する絵画名品をテーマとして、文人絵画、風俗絵画、仏画を展示、紹介することができた。原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却についても、中国国家博物院、韓国国立中央博物館と連携して計画的に効率よく進めることができた。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中国国家博物館、韓国は国立中央博物館が所蔵する両国の美術とともに展示したことで、日本美術の特質を示すことができた。29年度には韓国国立中央博物館において、本展覧会と同じ3館が共同で虎をテーマにした特別展を開催する予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2)海外展							
【年度計画】 (年度計画外で実施) 海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」								
担当部課	学芸企画部企画課			事業責任者	特別展室長 丸山士郎			
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会名 海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」 ・会 期 5月24日（火）～6月12日（日）（18日間） ・会 場 韓国国立中央博物館 ・主 催 韓国国立中央博物館、日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館 ・作品件数 2件 ・来館者数 46,801 人 ・入場料金 無料 <p>半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わった。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。なお、本展覧会は東京国立博物館と韓国中央博物館で開催した。</p>								
【補足事項】								
								
開会式の様子			会場の様子					
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
来館者数	46,801人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：-	【判定根拠、課題と対応】 本展は年度計画に無く、急遽開催されたものである。韓国でも広く知られる中宮寺の半跏思惟像を韓国で初めて展示し、その優れた表現に直接触れる機会をつくることができた。また、同じ形式の韓国の仏像と合わせて展示することによって、両国の仏像表現の共通性と相違を伝えることができた。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：-	【判定根拠、課題と対応】 日朝国交正常化50周年に関連して急遽開催された展覧会である。準備期間が非常に短かったが中宮寺、韓国国立中央博物館等関係者と密接な連絡をとることによって開催することができた。なお、本展は年度計画に無く、急遽開催されたものであるため、年度計画に対する評価はない。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供 1/2								
【年度計画】 (4館共通) ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (東京国立博物館) ア 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 イ より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。									
担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課			事業責任者	課長 竹之内 勝典 課長 若林 賢一 特別展室長 丸山 士郎 デザイン室長 木下 史青				
【実績・成果】 (4館共通) ア 当館開催の特別展のうち、7つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。(貸出台数177, 522台) イ 館内においては、出入口スロープの設置、障がい者用トイレの設置は既に完了し、今後屋外のトイレ等について関係法令に基づく整備の実施を予定している。 また、重要文化財となっている本館等の建物については、現行の法令基準に完全合致させる事が困難である部分もあり、今後保存活用計画の策定を経て更に施設面でのバリアフリー化を検討するとともに「障害者差別解消法」等の法令とも照らして来館者の機会損失とならない施設整備の実施についても検討していく。 案内サインのデザイン更新により、視認性が向上によるデザインのユニバーサル化を進めている。 (東京国立博物館) ア 館内の案内・誘導・解説サインの多言語化を行った。アルコール置場・アンケート置場などデザインの統一化を図った。 イ・特別展において、作品をより見やすく展示するためにLEDスポットを追加で購入した。(8台、導入時期：29年3月) ・展示照明の品質を保つため、故障した既存白熱系スポットライトの継続的にメンテナンス・修理している。 ○ より快適な観覧環境のため、清掃委託内容の見直しを行った。									
									
森鷗外総長室跡・解説の4言語化 (日英→日英中韓)			法隆寺宝物館のサイン・什器のデザイン統一			サイン更新による視認性向上(西門)			
【補足事項】									
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
	音声ガイド貸出台数	177, 522台※	-	-		225, 235	154, 056	261, 241	223, 331
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 現行法規と重要文化財建物等の事情を勘案してバリアフリー化対応した諸設備について概ね整っている。サインの多言語化は一部暫定的だが完了している。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う									
【中期計画に対する評価】 評価：A			【判定根拠、課題と対応】 現行法規と重要文化財建物等の事情を勘案してバリアフリー化対応した諸設備について概ね整っている。案内・誘導・解説サインについて多言語化・ユニバーサル化は概ね整っているが、全館的デザイン統一・整備の検討が急務である。						

※ 28年度中に貸出しを行った台数

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供 2/2							
【年度計画】 (東京国立博物館) ウ 総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクナビ」(日本語版・英語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。「トーハクナビ」の「本館2階 日本美術の流れコース」「平成館 日本の考古」については作品解説も搭載し、前者については、それと連動したパンフレットを制作・配布する。 エ ユニバーサルデザインの触知図による対応など、障がい者のための環境整備を引き続き実施する。 オ 「総合案内パンフレット」(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を制作・配布する。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布する。 キ 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	総務課長 竹之内 勝典 博物館教育課長 小林 牧 広報室長 鬼頭 智美					
【実績・成果】 ウ アプリ「トーハクナビ」、「法隆寺宝物館30分ナビ」を継続して提供し、連動パンフレットの配布も継続して行った。また、ログ解析を継続し、利用者の使用状況把握を行った。さらに、「トーハクナビ」については、27年2月1日より端末貸し出しサービスを開始、2月28日からはアプリのコンテンツの一部を中国語・韓国語に翻訳した音声ガイドの貸し出しサービスも開始した。 エ ユニバーサルデザインの触知図による対応、ギャラリートーク、講演会会場にヒアリンググループやUDトーク(音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ)の設置をするなど、障がい者のための環境整備を実施した。 オ 「総合案内パンフレット」(7言語(8種):日151,000部、英85,000部、中(簡体字20,000部・繁体字10,000部)、韓47,000部、仏14,000部、独9,000部、西9,000部)を制作・配布した。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布した。 キ 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供した。また、8月15日にキッズデーを開催し、子育て世代の来館促進と、博物館体験の充実を図った。								
【補足事項】 ウ 各アプリの28年度のダウンロード件数は以下の通りである。 ・Android版「トーハクナビ」3,434件(累計13,145件、24年4月18日公開)(3月末現在) ・iOS版「トーハクナビ」7,970件(累計23,557件、25年9月26日公開)(3月末現在) ・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」1,040件(累計24,616件、23年1月20日公開)(3月末現在)								
<div style="text-align: right;">  <p>アプリ端末・音声ガイド貸し出し風景</p> </div>								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 「トーハクナビ」、「法隆寺宝物館30分ナビ」の継続、障がい者のための環境整備、「総合案内パンフレット」の制作・配布、「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。しかし、より幅広い来館者層を対象とした快適な環境の整備が必要。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 聴覚障がい者向けの設備の充実など一定の成果はあげているが、まだまだ対応は不十分といえる。引き続き幅広い来館者の利用に配慮した快適な観覧環境の提供のための施策を推進したい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供							
<p>【年度計画】(4館共通)</p> <p>ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>イ 館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>ア 明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための観覧環境を検討する。</p> <p>イ 館内案内リーフレット(6言語:日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。</p> <p>ウ 平常展(名品ギャラリー)においても、音声ガイド(4言語:日、英、中、韓)を継続して活用し、来館者に対するサービスの向上を図る。</p>								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 企画室長 伊藤信二					
<p>【実績・成果】(4館共通)</p> <p>ア ・特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 ・館内のデジタルサイネージにおける情報発信や、特別展覧会開催時には日本語の音声ガイドを実施するなど、サービスの向上を図った。</p> <p>イ ・平成知新館名品ギャラリーの展示室看板(作品分野の解説)へ中・韓国語訳を付した。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>ア ・大型独立展示ケースの移設作業及び可搬式大型六角展示ケースの購入など、特別展覧会を開催するための観覧環境の整備を実施した。 ・明治古都館の改修計画に来館者用エレベーターの設置を検討している。</p> <p>イ 館内案内リーフレット(6言語:日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布した。</p> <p>ウ 平常展(名品ギャラリー)においても、音声ガイド(4言語:日、英、中、韓)を継続して活用した。</p>								
<p>【補足事項】(京都国立博物館) ア 平成知新館は平常展を行うための施設として26年9月にリニューアルオープンしたが、特別展覧会を開催するにあたり、一時に多数の来館者が訪れる大規模な展覧会を開催するに際しての動線管理や来館者の滞留や、屏風等の大型作品の鑑賞時に適切な距離が確保できていないことなど、観覧環境と安全管理上対策が必要となった。28年度実施した対策は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶磁展示室の大型独立ケースの移設を実施。 ・染織展示室の大型独立ケースを彫刻展示室へ移設。 ・染織展示室へ可搬式大型六角展示ケースを購入。 ・漆工展示室の大型独立展示ケースをリフター改造により移動を可能とした。 <p>ウ 音声ガイド利用台数 計36,584台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展覧会「臨濟禪師1150年 白隠禪師250年遠諱記念 禅一心をかたちの一」(日本語のみ) 11,199台 ・特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」(日本語のみ) 10,020台 ・名品ギャラリー(4言語:日、英、中、韓) 15,365台 								可搬式大型六角展示ケース
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出回数	36,584台	-	-		35,037	17,202	76,671	109,167
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>29年度は館内案内リーフレットの配布、名品ギャラリーにおける音声ガイドなどを継続して行うことに加え、新たに、看板の一部に中・韓国語訳を付し、更には、混雑が予想される特別展覧会「国宝」を見据えた平成知新館の観覧環境の整備として、大型独立展示ケースの移設作業及び可搬式大型六角展示ケースの購入を行った。特に、展示ケース移設作業、購入により、特別展の展示作品を柔軟に計画できるようになり、観覧環境の向上に資することが期待されるため、十分な成果である。</p>							
<p>【中期計画記載事項】博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う</p>								
【中期計画に対する評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>博物館内の施設の多言語化を進めるため、一部の作品の英訳を併記すること、展示室看板に中・韓国語訳を付すことなど、中期計画初年度として順調に事業を実施することができた。また、展示ケース移設作業、購入により、29年度以降の特別展における、観覧環境と安全管理上の対策を可能とすることの見通しが立った。28年度の成果を生かし、29年度についてはより多言語化を進めること及び快適な観覧環境を提供することに努めていきたい。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供							
<p>【年度計画】(4館共通)</p> <p>ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>イ 館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を行う。</p> <p>イ 誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。</p> <p>ウ 正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。</p> <p>エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。</p> <p>オ 多言語による案内について充実を図る。</p>								
担当部課	総務課		事業責任者	課長 室溪 浩				
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>ア 特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を行った。</p> <p>イ ・サイン検討会議を開催し、現状サインの問題点を把握しつつ、今後あるべき姿としてのサイン計画立案を進めた。 ・なら仏像館リニューアルに伴いエントランス部分に視覚障がい者の歩行を補助すべく点字板を設置した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア なら仏像館展示室を全面改修した。</p> <p>イ 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。</p> <p>ウ 正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2名が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを実施した。</p> <p>エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。</p> <p>オ 総合案内に外国語(英語、中国語)対応できるスタッフを常時配置し、外国人来館者への対応の充実を図った。</p>								
<p>【補足事項】</p> <p>(4館共通)</p> <p>イ ・サイン検討会議を開催し、現状サインの問題点を把握しつつ、今後あるべき姿としてのサイン計画立案を進めた。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア なら仏像館展示室の改修において、内装改修による展示室全体の素材の変化やLED照明の導入により、従来より展示空間全体が明るさを増しながら、展示品の視認性を確保した展示環境を作り出した。また新たに導入した展示ケースに使用している高透過ガラスによりクリアな視界を確保できた。</p> <p>イ 正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。</p> <p>ウ 正倉院展の会期中の無料託児室は託児数106名の利用があった。</p>								
								
新設した点字板 (なら仏像館)		館内誘導サイン (西新館)	無料託児室 (西新館)	総合案内 (東新館)				
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出回数	42,210台	-	-		41,504	46,953	55,466	49,546
【年度計画に対する総合評価】	<p>評定: B</p> <p>【判定根拠、課題と対応】 なら仏像館及び地下廻廊において、英語以外の多言語対応を達成した。施設のバリアフリー化に関しては、なら仏像館エントランス部分に視覚障がい者用の点字板を設置し整備を進めることができた。</p>							
<p>【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う</p>								
【中期計画に対する評価】	<p>評定: B</p> <p>【判定根拠、課題と対応】 館内における多言語化を常に意識し、英語以外の言語にも対応を進めている。また、来館者がより快適に観覧できるよう、館内外のあるべき姿としてのサイン計画立案を行うなど、中期計画にある快適な観覧環境の提供に関して順調に進んでいる。29年度は特別展での音声ガイドの4言語(日・英・中・韓)対応を実施予定であり、更なる充実を図る。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供								
【年度計画】 (4館共通) ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (九州国立博物館) ア 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 イ 来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 ウ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 エ 文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。 オ 英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。									
担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆 課長 楠井隆志 課長 菅原秀倫						
【実績・成果】 (4館共通) ア 4回開催した特別展では音声ガイドを導入し、満足度の向上に努めた。 イ 館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行った。 (九州国立博物館) ア 文化交流展室にかかる次世代の音声ガイドの仕様の検討を進めた。 イ トピック展示入口に大型バナーを掲出し、開催の視認性を高めた。 ウ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 エ・オ 27年度に内容を更新した館内案内リーフレットに文化交流展示室について、より詳細な情報を掲載した結果、従来の展示室のマップと内容の重複が生じたため、従来の展示室のマップおよび外国語パンフレットの機能は、館内案内リーフレットに集約した。									
【補足事項】 (4館共通) ア) 特別展音声ガイド ・特別展「始皇帝と大兵馬俑」では、191,222人の来館者に対して40,813台の貸出があった。 (貸出率21.3%)。(28年度中は、34,885台。) ・特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」では、133,002人の来館者に対して18,100台の貸出があった。(貸出率13.6%) ・特別展「京都 高山寺と明恵上人 ー特別公開 鳥獣戯画ー」では、161,172人の来館者に対して25,258台の貸出があった。(貸出率15.7%) ・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では、75,966人の来館者に対して9,519台の貸出があった。 (貸出率12.5%) ・文化交流展室音声ガイド貸出件数:計11,083台(英語版:3,021台、中国語版:3,877台、韓国語版:4,185台) (九州国立博物館) ア トピック展示の会場サインをポスターのロゴと共通するものとし、開催場所がはっきりと明示されるようにした。 イ トピック展示に対しては、27年度のリニューアル以降、室内サインを統一した反面、開催場所が分かりにくいといった意見が寄せられていた。そこでトピック展示開催の場合には、展示室入口に視認性の高い大型バナーを掲げ、デザインをポスターロゴと共通させることで、入口が分かりやすくなるよう改善を行った。									
【定量的評価】 項目		28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出回数		98,845台※	-	-		114,064	55,611	67,665	70,955
【年度計画に対する総合評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】 リニューアル後の文化交流展室の空間デザインを一部変更し、トピック展示では目立つようなサインを掲出して差別化を図った。今後は来館者の満足度を考慮しつつ、サイン・グラフィックの改善を行うこととする。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の達成に向けて順調に推移している。引き続き、関係部署との連絡調整を行い、観覧環境の快適性を今以上に高めていくことを目標とした。							





トピック展示入口

※ 28年度中に貸出しを行った台数

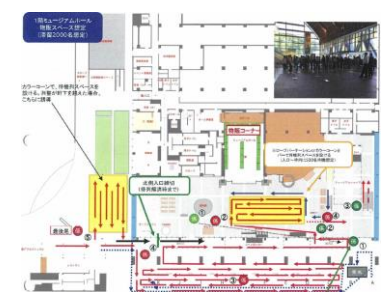
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 ウ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (東京国立博物館) ア 特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。									
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典						
【実績・成果】(4館共通) ア 観覧環境に関する来館者アンケートと多言語化に関する外国人アンケートを実施した。 イ 混雑が想定される状況においては、入場制限をかけることや待ち時間の表示を掲示するよう対策を取った。 ウ ミュージアムショップやレストランについてはアンケートによる利用者の意見把握に努め、運営者と定期的な協議を行いながらサービス向上に努めた。ミュージアムショップでは、来館者属性の変化に応じて、若年層や外国人向けの商品開発も進めた。 (東京国立博物館) ア 展覧会開催に併せてキッチンカーによる軽食販売を実施した。									
【補足事項】(4館共通) ア 観覧環境に関する満足度について、レストラン・ショップ・館内スタッフの対応についての満足度はそれぞれ70%前後であるが、不満足であると回答を得たのは10%程度である。 多言語化表記に関しての満足度について、好評を得たのは70%弱となっているが、不満足であると回答を得たのは10%程度である。 (東京国立博物館) ア キッチンカーについては、雨天を除く開館日は毎日日替わりで2台以上、年間200台以上の店舗が出店し、好評を得た。また、花見の季節やプレミアムフライデーに併せて追加出店も行った。 ウ 「見返り美人」や「色絵月梅図茶壺」の図柄をデザイン化したカステラやお茶漬け海苔、「埴輪 踊る人々」のぬいぐるみや刀剣の絵葉書など、より親しみやすい商品の開発・販売を行った。また、広報大使である公式キャラクター「トーハクくん・ユリノキちゃん」使用したノベルティグッズについても、館内での使用を前提に検討を進めている。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		70.4%	80%超	C	-	-	-	-	-
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		69.7%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 ミュージアムショップでは継続的に運営者側と協議を持ちながら、学芸員等のアイデアを生かした東京国立博物館のオリジナル商品の開発販売を行い、好評を博した。 観覧者の安全を図るべく適宜状況に応じた方策の検討を行った。 アンケート満足度については観覧環境・多言語化表記ともに概ね好評を得ることができた。今後もアンケートを引き続き実施し来館者の意向確認及び満足度の向上に努める。 また、次年度以降もキッチンカーの出店を続ける予定である。						
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートによるフィードバックをミュージアムショップ・レストランと共有し、定期的に協議を行いながらサービスの改善等に取り組むことができた。満足度調査においては数値目標を超えているが、多言語化表記に関する満足度をさらに満足度を高めていくことを目指す。						



キッチンカー出店模様

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等							
<p>【年度計画】(4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。</p> <p>イ 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。</p> <p>ウ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。</p> <p>(京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。</p> <p>(京都国立博物館) ア モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。</p> <p>イ レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。</p>								
担当部課	総務課 学芸部企画室	事業責任者	課長 植田義雄 室長 伊藤信二					
<p>【実績・成果】(4館共通)</p> <p>ア 来館者アンケートを実施し、その結果を踏まえ、展示作品の英語解説を増やすなどの改善に生かした。</p> <p>イ 特別展覧会「坂本龍馬」においては動線管理、混雑対策等を展覧会期前より打ち合わせの上想定することにより、混雑した際にはスムーズに対応することができた。</p> <p>ウ 新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品等を取り揃え、サービスの向上に努めた。</p> <p>(京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>ア 『博物館だより192号』にて花園大学名誉教授 竹貫元勝氏による特別展覧会「禅 -心をかたちに-」の展覧会評を掲載した。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>ア 小学校・中学校・高等学校の教員、キャンパスメンバーズ加盟校の学生、外国人招致活動用務に携わっている方及び近畿地区在住の外国人の方へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。</p> <p>イ レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示することで、接客サービスの向上に努めた。</p>								
<p>【補足事項】(4館共通) イ 昨今の刀剣ブームを勘案し刀剣がある展示室中央には展示ケースを置かないこと、書簡については貼りキャプション、置きキャプション両方を設置、また、混雑が予想される作品については、最前列観覧用の列と後ろからの観覧用の列と分けるなどの想定及び対策を行った。</p> <p>ウ 特集陳列「生誕300年 伊藤若冲」、新春特集陳列「とりづくし-干支を愛でる-」の開催に合わせたオリジナルグッズとしてボールペンを製作し、12月23日より販売を開始した。</p>								
								
坂本龍馬展 刀剣の展示室風景			オリジナルグッズの製作					
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	40.2%	80%超	D		-	-	-	-
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	69.3%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】観覧環境に関するアンケート満足度が目標値を下回った理由として、文化財保護のための空調・照明管理に関する来館者への周知不足が考えられる。今後はサイン等での積極的な周知を心がけ、来館者の理解を得られるよう努めたい。アンケート満足度が目標値を下回る一方、混雑が予想される展覧会では状況に応じた動線管理を行い、また、オリジナルグッズの開発やレストランメニューの導入も行うことなど、対応可能な対策を行った。以上、総合的に観覧環境の向上、改善を進めている。							
【中期計画記載事項】来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】中期計画初年度として、観覧環境や多言語化に関する満足度調査等をもとに、混雑時の対応見直しや英語解説の増加等、サービス改善に向けた取組に着手することができた。29年度も引き続き、利用者に配慮した運営を図るべく事業や管理運営の見直しに取り組む。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等							
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 ウ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (奈良国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 室溪 浩					
【実績・成果】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する対面回収による来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、その結果を改善に活かした。 イ 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの多言語化や、その対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 ウ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、新たなオリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品や従来品をリニューアルするなど、サービス向上に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 当館刊行の『奈良国立博物館だより』(100号 29年1月刊行)に以下の展覧会評を掲載した。 筑波大学名誉教授・根本誠治氏「展示評 生誕800年記念特別展『忍性一救済に捧げた生涯』忍性さんにお会いしました。」 (奈良国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努めた。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 70%;"> <p>【補足事項】 (4館共通) 元気が出る仏像シリーズ (仏像をかわいらしくデザイン)</p> <p>ア) 正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃、エントランスマット清掃を業者委託により実施した。 正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置し、混雑状況の中でもトイレ利用案内、ミュージアムショップやレストランへの誘導が図れた。 イ) 正倉院展では、館外にコインロッカー等設置することで、観覧しやすい環境の確保に努めた。 (奈良国立博物館) イ) 堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」や正倉院模様の手鏡等のオリジナルグッズをミュージアムショップで販売した。</p> </div> <div style="width: 25%; text-align: right;"> <p>特設コインロッカー</p>    <p>正倉院模様グッズ (手鏡・マグネット (漆胡瓶)、(螺鈿紫檀五絃琵琶))</p> </div> </div>								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	68.0%	80%超	C	-	-	-	-	-
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	67.7%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 名品展や夏の特別展では、満足度が高かったものの、春の特別展での展示会場、秋の正倉院展での展示台の高低及び混雑の為順路が判りにくい等、来館者の満足度が低かった。アンケートの意見等を参考にし、今後も満足度の向上に努める。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に対する満足度は、目標値を超えなかった。29年度では特別展の特性を捉えた細かな対応が必要となる。一方、ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズや仏教美術に関する図書の販売について、利用者の意見を参考に充実を図った。また、レストランにおいても利用者の意見の収集しサービス向上に努めており、中期計画期間中の改善が順調に行われた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】									
(4館共通)									
ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。									
イ 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。									
ウ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。									
(九州国立博物館)									
ア 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。									
イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。									
担当部課	学芸部企画課 広報課 総務課	事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆 課長 古川 晶一 課長 菅原秀倫						
【実績・成果】									
(4館共通)									
ア 特別展、文化交流展のアンケート調査項目を見直し、「施設の満足度」及び「サービスの満足度」を新たに調査項目に加えた。文化交流展のアンケート（英語版）を作成した。									
イ 京都・東京での実績から混雑が予測された特別展「京都 高山寺と明恵上人-特別公開 鳥獣戯画-」では、ミュージアムショップを通例の3階特別展出口前とは異なって1階ミュージアムホール内に移動し、入場するまでの待ち列のスペース確保を図った。混雑時の動線を想定し、関係各課と連絡調整をはかりつつ、円滑な観客誘導に努めた。									
ウ 当館オリジナルグッズの開発のため、館内でワーキンググループを作り、マスキングテープなどの新たな商品を開発した。									
(九州国立博物館)									
ア レストランでは年4回の特別展にちなんだ特別メニューを提供し、好評を博した。									
イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」では、特別展にあわせてバナーを店頭に掲出し、告知に努めた。									
 <p style="text-align: center;">高山寺展混雑導線図</p>									
【補足事項】									
(九州国立博物館) ア									
・特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」では、東山魁夷ゆかりの地、信州の老舗「澤志庵（たくしあん）」の青じそ麵を使用した『佐賀金星豚と和風ラタトゥイユの冷製そば』を提供した。									
・特別展「京都 高山寺と明恵上人」では、京料理に馴染みのある鴨肉や鴨のフォアグラ、京野菜を使った『鴨、京野菜、フォアグラの鰯漬丼』を提供した。									
・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では、宗像市をはじめ福岡県内の食材をふんだんに使い、金箔で沖ノ島に秘められた神々しさを表現した『だし薫る特撰醤油ラーメン』を提供した。									
【定量的評価】 項目		28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		77.2%	80%超	C	-	-	-	-	-
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		78.8%	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		混雑が予想された特別展でも、前例にとられない柔軟な対応でクレームを最小限に抑えることができた。レストラン、ショップ共、斬新な企画を打ち出し、満足度の向上に努めたが、わずかに目標には届かなかった。他方、多言語化対応については、外国人から一定度の評価を得ている。今後も、関係各所と連携して魅力ある展覧会の運営をし、顧客満足度をさらに高める。							
【中期計画記載事項】									
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		混雑が予測される展覧会では事前に関係部署と調整し、混雑対応について適切かつ迅速にクレーム処理を進めることができた。また、ショップやレストランとも密接に連携して、中期計画の達成にむけ初年度としては順調に推進している。							